

**2026年度 PA&レコーディングエンジニア専攻 シラバス**

授業名	PA実習1	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	音響・PAシステムの基礎を習得する				
授業概要	アナログコンソール及びデジタルコンソールを併用しバンドセッティングやドラムセットの組み方など、PAの基礎を習得する				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	動きやすい服装、メモをとる、返事を必ず。				
担当教員	平井 隆寛	実務経験	○		
実務内容	PAエンジニア、オペレーターとしてメジャー・インディーズ問わず数多くのアーティストの現場を担当。現在では音楽制作チームSound Raveにコンポーザーとして所属。オリジナル作品を多く発表するほか、CM音楽、アイドルソング、BGM、ソロシンガー等へ幅広い楽曲を提供、発表している。				

前 期		後 期	
1	ケーブルの取扱	1	ドラムセット①(ドラムセットを組み立てる)
2	マイクスタンドの種類と取扱	2	ドラムセット②(ドラムセットのマイクアレンジ)
3	PAシステムのシグナルルーティング	3	ベースアンプを知る(ベースの音をマイクとDIでピックアップ)
4	マイクの種類と指向性	4	ギターアンプを知る(ギターアンプの音をマイクでピックアップ)
5	ダイレクトボックス	5	キーボード(キーボードの音をDIでピックアップ)
6	音の三要素	6	ステージモニター①(モニターの役割)
7	音場(ライブネスとは)	7	ステージモニター②(モニターの系統とモニター卓へのインプットのアタマ分け)
8	アナログコンソール	8	モニターのインサート(各系統へのイコライザーのインサートと役割)
9	マイクゲインの調整	9	モニターシステムのシグナルルーティング
10	トータルEQ	10	音場とライブネスのコントロール
11	チャンネルディバイダー	11	システムチューニング、モニターチューニング
12	パワーアンプ	12	エフェクター(ディレイ、リバーヴ)
13	スピーカー	13	エフェクター(コンプレッサー)
14	デジタルコンソール	14	マイクの取り扱い
15	マルチケーブル	15	AUX(AUX OUTのセッティング) マトリックスアウト(マトリックスアウトのセットアップ)
16	エフェクター、プレイバック	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 PA&レコーディングエンジニア専攻 シラバス					
授業名	ライブPA実習1	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	音楽ライブ及びイベントにおける舞台照明、舞台セット、特殊効果をライブ形式で実践的に学ぶ				
授業概要	実際のイベント現場で行われるライブを想定し、実践力を身につける セクションの連携をとりつつ、一つ一つのオペレーションを詰めていく イレギュラー・複雑化する演目に対し、準備をしっかりと行う				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	動きやすい服装、メモをとる、返事を必ず。				
担当教員	大和田 淳司	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科卒業後、音響会社やWEB制作会社に勤めたのち、会社を設立。 音響オペレート・レコーディング業務を始めアーティストプロモーションやイベントライブ企画・映像音楽制作・WEB制作・建築などクリエイティブな分野で活躍中。				

前 期		後 期	
1	ライブ実習の進め方(ワークフローの確立、実践)	1	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
2	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	2	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの4セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
3	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	3	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの5セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
4	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	4	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの6セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
5	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	5	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの7セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
6	新入生歓迎ライブ前 ライブ実習	6	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの8セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
7	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	7	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの9セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
8	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	8	2年生卒業ライブ前 ライブ実習
9	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	9	2年生卒業ライブ
10	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	10	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの12セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
11	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	11	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの13セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
12	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	12	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの14セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
13	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	13	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの15セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
14	2年生定期ライブ前 ライブ実習	14	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの16セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
15	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	15	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの17セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
16	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	16	
17			

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 PA&レコーディングエンジニア専攻 シラバス**

授業名	レコーディング実習1	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	録音スタジオの仕組み、機材を学び、レコーディングの基礎になる能力を養う				
授業概要	録音スタジオの仕組み、機材を学び、レコーディングの基礎になる能力を養う				
教科書	サウンドレコーディング技術概論	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	動きやすい服装、メモをとる、返事を必ず。				
担当教員	岡本 崇樹	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科卒業後、音響会社やWEB制作会社に勤めたのち、会社を設立。 音響オペレート・レコーディング業務を始めアーティストプロモーションやイベントライブ企画・映像音楽制作・WEB制作・建築などクリエイティブな分野で活躍中。				

前 期		後 期	
1	エンジニアの役割	1	Pro Toolsでセッションファイルの作成
2	音の基本的性質	2	インプットのレベル管理
3	音の三要素(音量、音質、音程)	3	録音トラックのレベル管理
4	エンベロープ(音の三要素の時間的変化)	4	クリックトラックを作成、CUE BOX送り
5	モニター(モニタースピーカーの調整)	5	バンド録音のトラック作成し、楽器ごとのグループ
6	パッチベイ(マイクの結線)	6	ドラムのモニターグループ
7	マイク(マイクの種類、指向性)	7	スタジオの電源管理
8	楽器の知識(ドラムセット、ベース、ギター、キーボード等)	8	バンド録音のマイクアレンジ(ドラム、ベース、ギター、ボーカル)
9	Pro Tools(入出力パッチ)	9	マイクの回線をWALLPATCHへ結線
10	キューボックスへの送り	10	CUE BOX、ボーカルマイクにポップガード
11	トークバック(スタジオ内のコミュニケーション)	11	インプットチャンネルのアレンジ
12	シグナルルーティング(レコーディングシステムの信号経路)	12	パッチベイ(インプット、インサート等のパッチ作業)
13	ドラムのマイクセッティング	13	インプット管理(ファンタム、フェイズ、ダイレクトアウト)
14	ドラムの録音(ドラムのゲイン調整)	14	Pro Toolsパッチ(Pro Toolsの内部イン、アウトパッチ)
15	DI(ダイレクトボックス)	15	回線チェック(インプット、Pro Tools、モニターレベル管理) コンプレッサー(コンプレッサーチェック)
16	ギター・ベースの録音	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

## 2026年度 PA&レコーディングエンジニア専攻 シラバス

授業名	ProTools1	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	Pro Toolsを使用し、デジタルレコーディングの基礎的な知識と技術、感性を習得する				
授業概要	Pro Toolsを使用し、デジタルレコーディングの基礎的な知識と技術、感性を習得する				
教科書	Pro Tools 12 徹底操作ガイド	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	ヘッドフォンを各自持参				
担当教員	岡本 崇樹	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科卒業後、音響会社やWEB制作会社に勤めたのち、会社を設立。音響オペレート・レコーディング業務を始めアーティストプロモーションやイベントライブ企画・映像音楽制作・WEB制作・建築などクリエイティブな分野で活躍中。				

前 期		後 期	
1	DAW概要	1	クリップミュート(分割してミュート)
2	MAC概要	2	AUXトラック(サブマスター、エフェクトリターン)
3	エディット(エディットツール、エディットモード)	3	DCAマスタートラックを組む
4	ナッジ、グリッドモード	4	イコライザー(パラメトリックイコライザーとフィルター)
5	音の三要素	5	コンプレッサー(コンプレッサーの調整)
6	エンベロープ	6	テンポ検出(テンポ検出からグリッドを使う)
7	ミックスの進め方	7	マキシマイザー(トータルな音圧感)
8	デジタルオーディオ	8	VCAマスター
9	音量バランス	9	MIDIレコーディング
10	音質バランス	10	MIDIエディット
11	定位バランス、ライブネスバランス	11	MIDIデータとオーディオ
12	バウンスフォーマット	12	ショートカット、バックアップ
13	イコライザー(イコライザーの役割とパラメーター)	13	バンドミックス
14	コンプレッサー(コンプレッサーの役割とパラメーター)	14	ライブミックス
15	ディレイ(ディレイのパラメーターと調整)	15	アコースティックミックス マスターリング
16	リバーブ(リバーブのタイプとパラメータの調整)	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 PA&レコーディングエンジニア、PA&照明、総合音楽専攻 シラバス**

授業名	グラフィック広告制作	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	業界内での広報業務、ステージ裏サイン等幅広く必要となるグラフィックソフトの知識を学ぶ				
授業概要	イラストレーター、フォトショップを使い、基本操作をベースに応用として創作課題にもチャレンジ。				
教科書	なし	成績評価	課題、出席率、取り組みの姿勢		
備考					
担当教員	長谷川 史織	実務経験	○		
実務内容	デザイン会社を経て、イベントエンタメ業界へ。広告代理店での出向業務～北海道で開催される様々なイベント運営に関わり、フリーランスへ転向後もこれまでの経験を主軸にマルチクリエイターとして活動。（主なイベント、さっぽろ雪まつり、よさこいソーラン祭り、JOINALIVE、RSRなど）				

前 期		後 期	
1	ネットワークへのログインとアンケート、自己紹介	1	フォトショップ基礎／人物のレタッチ 練習
2	イラストレーター基礎／図形とカラーと線	2	フォトショップ基礎／人物のレタッチ 課題
3	イラストレーター基礎／パスを使ってロゴをトレース	3	フォトショップ基礎／食べ物のレタッチ 練習
4	イラストレーター基礎／パスを使ってイラストをトレース	4	フォトショップ基礎／食べ物のレタッチ 課題
5	イラストレーター基礎／文字ツールの使い方とロゴデザイン	5	イラストレーター・フォトショップ応用／レタッチした写真を使用してWebバナー制作、イラストレーターおさらい
6	オリジナルロゴ制作／アイデア出し	6	イラストレーター・フォトショップ応用／レタッチした写真を使用してWebバナー制作
7	オリジナルロゴ制作／アイデアチェック、制作スタート	7	イラストレーター・フォトショップ応用／レタッチした写真を使用してWebバナー制作
8	オリジナルロゴ制作／制作、提出	8	イラストレーター・フォトショップ応用／レタッチした写真を使用してWebバナー提出
9	フォトショップ基礎／機能の説明とCameraRawフィルター、被写体選択を使った切り抜きとコピー	9	イラストレーター・フォトショップ応用／クリスマスイベントフライヤー制作 アイデア、素材集め
10	フォトショップ基礎／切り抜きとコピー応用 スマホ画面制作練習	10	イラストレーター・フォトショップ応用／クリスマスイベントフライヤー制作スタート
11	フォトショップ基礎／切り抜きとコピー応用 好きなもので作るスマホ画面制作（素材集め～）	11	イラストレーター・フォトショップ応用／クリスマスイベントフライヤー制作→提出 プリントアウトして掲示
12	フォトショップ基礎／好きなもので作るスマホ画面提出、Fireflyを使ったAI生成	12	イラストレーター・フォトショップ応用／クリスマスイベントフライヤー制作→提出 プリントアウトして掲示
13	自習）Firefly画像を使用してPhotoshopでコラージュしよう！	13	イラストレーター・フォトショップ応用／1年生の思い出を詰め込んだZINEを作ろう！ アイデア出し
14	フォトショップ応用／文字加工ネオン文字	14	イラストレーター・フォトショップ応用／1年生の思い出を詰め込んだZINEを作ろう！ 制作
15	フォトショップ応用／アクション機能を使ってポリゴン風の加工をしてみよう	15	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 PA&レコーディングエンジニア、PA&照明専攻 シラバス**

授業名	楽器・機材システム実習	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	楽器の基礎知識や演奏方法、楽器関係の周辺機器の使用法を学ぶ				
授業概要	楽器の扱い方や楽器に関する機材の使用法の習得 ローディーに必要な音楽知識の習得				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	動きやすい服装、メモをとる、返事を必ず				
担当教員	大和田 淳司	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科卒業後、音響会社やWEB制作会社に勤めたのち、会社を設立。 音響オペレート・レコーディング業務を始めアーティストプロモーションやイベントライブ企画・映像音楽制作・WEB制作・建築などクリエイティブな分野で活躍中。				

前 期		後 期	
1	授業説明 ローディーの仕事の紹介 必要な知識のことなど。	1	エフェクターについて① 楽器用コンパクトエフェクターの紹介。 種類や効果の確認。使用理由の紹介。
2	ドラムについて① ドラムの構造。各パーツの説明。 名称の確認。	2	エフェクターについて② 実際のセッティング例の紹介。 トラブルシューティングの練習…トラブル対応。
3	ドラムについて② ドラムの組み立て方や説明。 セッティングの種類や使い方の紹介。	3	アンプの応用 センド・リターン機能の説明。 実際のセッティング例の紹介。
4	ドラムについて③ 特殊なセッティングの紹介と実践	4	楽器の基礎知識① ギターやベースなどの構造の確認。名称の説明。
5	ドラムについて④ 少人数でのドラムセッティングの実践①	5	楽器の基礎知識② ギターとベースのチューニング
6	ドラムについて⑤ 少人数でのドラムセッティングの実践②	6	楽器の基礎知識③ オクターブチューニングについて。 通常のチューニングとの違いについて。
7	楽器用アンプについて① アンプの種類を紹介。 例：ギターアンプやベースアンプなど。	7	楽器の基礎知識④ 楽器のコンディションとセッティングによるプレイ アビリティの説明。
8	楽器用アンプについて② アンプの詳細についての紹介。 スタックやコンボ、ワット数やオームの確認。	8	楽器の基礎知識⑤ ネックの反りについての確認。症状と調整方法の紹介。 それらの実践。
9	楽器用アンプについて③ ギターアンプから音を出す方法の確認。 メーカーや種類についての紹介。	9	復習 楽器、アンプ、エフェクターの知識確認のために トラブルシューティングの練習。
10	楽器用アンプについて④ 1人づつギターアンプから音を出せるようにする。 各つまみの紹介や効果の確認。	10	ケーブル作成① ケーブルの種類についての紹介。 標準フォンのケーブル作成、はんだこての使用法。
11	楽器用アンプについて⑤ ベースアンプから音を出す方法の確認。 メーカーや種類についての紹介。	11	ケーブル作成② ケーブルの種類についての紹介。 標準フォンのケーブル作成。
12	楽器用アンプについて⑥ 1人づつギターアンプから音を出せるようにする。 各つまみの紹介や効果の確認。	12	ケーブル作成③ キャノンプラグ（マイクケーブル）の作成。
13	楽器用アンプについて⑦ キーボードアンプから音を出す方法の確認。 メーカーや種類についての紹介。	13	ケーブル作成④ キャノンプラグ（マイクケーブル）の作成のつづき。
14	楽器用アンプについて⑧ 1人づつキーボードアンプから音を出せるようにする。 各つまみの紹介や効果の確認。	14	ケーブル作成⑤ 標準フォンからキャノンへの変換ケーブル作成。
15	前期の復習① 前期に学んだドラム、アンプの知識を使い実際に セットを組む。	15	ケーブル作成⑥ 標準フォンからキャノンへの変換ケーブル作成の続 き。
16	前期の復習② バンドセットのバリエーション紹介。 少人数でのセッティングと音出し。	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 PA&レコーディングエンジニア、PA&照明専攻 シラバス**

授業名	イベント企画運営実務1	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	音楽業界全般の知識を身に付けて、ライブ企画、運営を実践する				
授業概要	音楽業界全般の知識を身に付けて、ライブ企画、運営を実践する				
教科書	なし	成績評価	授業態度・出席率		
備考	特になし				
担当教員	大和田 淳司	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科卒業後、音響会社やWEB制作会社に勤めたのち、会社を設立。音響オペレート・レコーディング業務を始めアーティストプロモーションやイベントライブ企画・映像音楽制作・WEB制作・建築などクリエイティブな分野で活躍中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション 自己紹介 授業内容について	1	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
2	音楽業界を知る、ライブによるPA・照明の研究	2	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
3	音楽業界を知る、レコードレーベル、音楽事務所(プロダクション)の違い、など	3	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
4	音楽業界を知る、イベンターの仕事とは、ライブハウスとホールの違い	4	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
5	音楽業界を知る、プロダクションの働き	5	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
6	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間	6	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
7	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間	7	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
8	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間	8	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
9	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間	9	校外での、企画ライブに向けた準備
10	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間	10	校外での、企画ライブに向けた準備
11	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間	11	校外での、企画ライブに向けた準備
12	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間	12	校外での、企画ライブに向けた準備
13	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間	13	校外での、企画ライブに向けた準備
14	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間	14	校外での、企画ライブに向けた準備
15	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間	15	校外での、企画ライブに向けた準備
16	ライブの運営方法 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 PA&レコーディングエンジニア、PA&照明専攻 シラバス**

授業名	業界マネジメント	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	業界の仕組みとマネージメントの方法の基礎を学ぶ				
授業概要					
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	大和田 淳司	実務経験	○		
実務内容	大手メジャーレーベル会社のプロモーターとして、アーティストのテレビ・ラジオ局への楽曲宣伝、イベントの企画や、ライブへ同行するなどのプロモーションを精力的に活動。と同時に、音響PAエンジニアとしても有名レコード店のインスタライブの担当や、ネット番組を企画など、多彩な才能を発揮し、音楽ビジネスの最前線で活躍中。				

前 期		後 期	
1	目標設定について 業界就職に向けて、どのようなスキルが必要になるか、現状の課題を洗い出し、夢に向けた目標を再設定。	1	人に伝える② マインドセット 人に伝わる方法と自己成長のマインドを学ぶ。
2	WEBマガジン運営① WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	2	WEBマガジン運営⑧ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
3	ライティング WEBマガジンコンテンツのライタースキルを向上させるためライティングを学ぶ。	3	インタビュー② 人の魅力の引き出し方、会話の引き出し方を学ぶ。
4	マインドセット 経験や先入観から形成される試行や思い込みを取り払う。	4	WEBマガジン運営⑨ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
5	WEBマガジン運営② WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	5	集客 様々なイベントへの集客方法を学ぶ
6	イベント企画 イベントの企画。人に印象に残るイベントを理解し、自ら考えるようになる。	6	WEBマガジン運営⑩ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
7	WEBマガジン運営③ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	7	アーティストマネジメント③ アーティストマネジメントの基礎のまとめ
8	アイデアの生み出し方 アイデアを生み出す方法と生かし方を学ぶ	8	コミュニケーション/目標達成① コミュニケーション能力を高め、目標達成に必要な考え方を学ぶ
9	WEBマガジン運営④ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	9	WEBマガジン運営⑪ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
10	人に伝える① 表現方法を変えて、人に伝える方法を学ぶ	10	イベント企画の立案 イベント企画を様々な角度から考えられるようにする。
11	WEBマガジン運営⑤ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	11	WEBマガジン運営⑫ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
12	アーティストマネジメント① アーティストマネジメントの基礎	12	企画力向上の7つのポイント 宿題である企画を発表。イベント企画の発表と今までのおさらいと企画力向上のポイントを伝える。
13	WEBマガジン運営⑥ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	13	WEBマガジン運営⑬ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
14	インタビュー① 人の魅力の引き出し方、会話の引き出し方を学ぶ。	14	コミュニケーション/目標達成② コミュニケーション能力を高め、目標達成に必要な考え方を学ぶ
15	WEBマガジン運営⑦ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	15	WEBマガジン運営⑭ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
16	アーティストマネジメント② アーティストマネジメントの基礎のまとめ		

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 PA&レコーディングエンジニア、PA&照明専攻 シラバス**

授業名	音楽基礎知識	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	さまざまな楽曲を知り、その成り立ちやその構造の基礎を知る				
授業概要					
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	端 一仁	実務経験	○		
実務内容	音楽大学在学中よりアレンジャーとして、数々の作品を手掛ける。同時に、ホーンセクションプレイヤーとして演奏活動も行う。作曲活動として、CMやイベント、楽曲提供などその範囲は広い。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション この時間の授業内容と、スタッフ系専攻になぜ音楽を知る必要があるのかを説明	1	
2	音と音楽、楽曲の説明	2	
3	楽曲とスケールの関係性を知る 今昔の楽曲をスケールに当てはめて聞く	3	
4	楽曲を用いて実際に打ち込んでみる Studio Oneの使い方説明 起ち上げから音が出るまで	4	
5	楽曲を用いて実際に打ち込んでみる Studio Oneの使い方説明 入力方法の選択と練習	5	
6	譜面についての知識 基本的な読み方の説明	6	
7	実習① ピアノ楽曲を用い楽曲を制作	7	
8	実習② ピアノ楽曲を用い楽曲を制作	8	
9	実習③ ピアノ楽曲を用い楽曲を制作	9	
10	制作した楽曲を用いて音価やリズムの説明	10	
11	譜割りや拍子の知識 4/4とは何かを音価、リズムを用いて説明し、単純拍子を知る	11	
12	アレンジの知識 メロディーから導くことの説明	12	
13	アレンジの知識 ピアノ、鍵盤楽器の特性	13	
14	アレンジの知識 ギター、ベース、弦楽器の特性	14	
15	アレンジの知識 ドラム、打楽器の特性	15	
16	学修内容の総括		

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 PA&照明専攻 シラバス				
授業名	照明実習1	学年	1年	単位数 4単位
授業目的	音楽ライブや各種イベントにおいて、照明及び舞台スタッフとして必要とされる、知識と技術の修得			
授業概要	音楽ライブ及びイベントにおける舞台照明、舞台セット、特殊効果の知識を高め、将来の職業に即した実践的授業を行う。			
教科書	なし	成績評価	出席率・授業態度・実習における理解度	
備考	スニーカー、黒い服装、メモその他			
担当教員	米倉 美知	実務経験	○	
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業後、札幌市内のライブハウススタッフとして照明スタッフ、PAエンジニアとして勤務。現在は、フリーランスの照明スタッフ、PAエンジニアとして活動、ライブイベントを中心に、様々なアーティストの現場で活躍中。			

前 期		後 期	
1	照明実習授業の安全管理 舞台上での事故例	1	1年生定期ライブ 照明・舞台復帰
2	照射光の方向性による区分	2	メディアホールにおけるライブ実習プランニング
3	メディアホールの照明回線及び仕込図の読み方	3	ライブ実習データ作成
4	2年生定期ライブの照明仕込みのサポート	4	メディアホールにおけるライブ実習プランニング
5	2年生定期ライブの照明データ作成作業を参考に、データ作成練習	5	ライブ実習データ作成
6	2年生定期ライブ 本番	6	学内ホール・劇場での仕込① スポットの種類と吊り込み作業
7	2年生定期ライブ 撤収・復帰	7	学内ホール・劇場での仕込② 仮アタリとシューティング作業
8	照明の基礎(吊り込み作業)サスの重量バランスと吊り込み台数	8	学内ホール・劇場での仕込③ トラブルシューティングとパッチ、データ入力
9	照明の基礎(吊り込み作業) スポットの吊り込み位置と介錯棒の使い方	9	2年生 卒業ライブのデータでオペレート練習
10	照明の基礎(フロー照明と回線の引き回し)導線の確保、安全管理	10	2年生 卒業ライブ
11	照明の基礎(色光) スポットの吊り込み位置と光の色・方向性	11	1月 1年生定期ライブ照明・舞台プランニング
12	9月 1年生定期ライブ照明プランニング	12	1月 1年生定期ライブ照明回線、舞台図作成
13	9月 1年生定期ライブ照明プランニング	13	1月 2年生定期ライブ照明・舞台仕込・データ作成
14	9月 1年生定期ライブ照明回線作成	14	1月 2年生定期ライブ照明・舞台仕込・データ作成
15	9月 1年生定期ライブ照明仕込・データ作成	15	1年定期ライブ 本番・撤収
16	1年生定期ライブ 本番・撤収	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

## 2026年度 PA&照明専攻 シラバス

授業名	ライブ照明実習1	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	音楽ライブ及びイベントにおける舞台照明、舞台セット、特殊効果をライブ形式で実践的に学ぶ				
授業概要	実際のイベント現場で行われるライブを想定し、実践力を身につける セクションの連携をとりつつ、一つ一つのオペレーションを詰めていく イレギュラー・複雑化する演目に対し、準備をしっかりと行う				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	動きやすい服装、メモをとる、返事を必ず。				
担当教員	米倉 美知	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業後、札幌市内のライブハウススタッフとして照明スタッフ、PAエンジニアとして勤務。 現在は、フリーランスの照明スタッフ、PAエンジニアとして活動、ライブイベントを中心に、様々なアーティストの現場で活躍中。				

前 期		後 期	
1	ライブ実習の進め方(ワークフローの確立、実践)	1	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
2	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	2	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの4セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
3	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	3	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの5セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
4	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	4	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの6セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
5	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	5	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの7セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
6	新入生歓迎ライブ前 ライブ実習	6	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの8セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
7	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	7	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの9セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
8	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	8	2年生卒業ライブ前 ライブ実習
9	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	9	2年生卒業ライブ
10	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	10	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの12セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
11	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	11	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの13セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
12	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	12	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの14セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
13	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	13	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの15セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
14	2年生定期ライブ前 ライブ実習	14	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの16セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
15	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	15	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの17セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
16	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 PA&照明専攻 シラバス**

授業名	舞台制作実務(照明基礎実習)	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	企画から本番運営まで、現場全体を統括する視点と実践力を習得する				
授業概要	舞台監督・制作進行の役割を中心に、ステージ制作の実務全般を学ぶ				
教科書	なし	成績評価	出席率・授業態度・実習における理解度		
備考	特になし				
担当教員	米倉 美知	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業後、札幌市内のライブハウススタッフとして照明スタッフ、PAエンジニアとして勤務。現在は、フリーランスの照明スタッフ、PAエンジニアとして活動、ライブイベントを中心に、様々なアーティストの現場で活躍中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション・舞台制作の全体像と役割	1	安全管理②:高所作業・重量物の取扱い
2	ステージの種類と会場特性の理解	2	ライブの運営方法① 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
3	舞台用語と業界用語の基礎	3	ライブの運営方法② 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
4	舞台図面の読み方(平面図・断面図)	4	ライブの運営方法③ 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
5	舞台図面の作成①:基本レイアウト	5	ライブ振り返りと改善点の分析
6	舞台図面の作成②:機材配置図	6	トラブル対応とリスクマネジメント
7	舞台機構の基礎(平台・箱馬・バトン・吊物)	7	現場コミュニケーションと指示伝達技術
8	ステージセットと大道具の基本	8	インカムシステムと現場連絡体制
9	現場チーム構成と役割分担の理解	9	中大規模ステージの制作手法
10	舞台監督の役割と責任範囲	10	予算管理と制作費の基礎知識
11	進行表(タイムテーブル)の作成方法	11	ライブの運営方法① 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
12	キュー出しと転換指示の基本	12	ライブの運営方法② 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
13	アーティスト動線と楽屋管理	13	ライブの運営方法③ 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
14	リハーサル進行の実務と時間管理	14	ライブの運営方法④ 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
15	本番進行とステージマネジメント	15	ライブ振り返りと改善点の分析
16	安全管理①:労働安全と搬入出の注意点	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 PA&照明専攻 シラバス**

授業名	ステージ技術基礎(照明基礎実習)	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	ライブ・コンサートにおける音響・照明・映像の技術的基礎を体系的に習得				
授業概要	PA・照明・映像の各システムについて、信号の流れ、機材の種類と構造、基本操作、配線・接続技術を実習中心で学ぶ				
教科書	なし	成績評価	出席率・授業態度・実習における理解度		
備考	特になし				
担当教員	米倉 美知	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業後、札幌市内のライブハウススタッフとして照明スタッフ、PAエンジニアとして勤務。現在は、フリーランスの照明スタッフ、PAエンジニアとして活動、ライブイベントを中心に、様々なアーティストの現場で活躍中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション・ステージ技術の全体像	1	配線実習②: 照明・映像ラインの整理技術
2	PA・照明・映像の関係性と役割分担	2	ライブの運営方法① 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
3	音響①: 音の物理的性質と伝達の仕組み	3	ライブの運営方法② 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
4	音響②: 電気信号の基礎とオーディオライン	4	ライブの運営方法③ 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
5	音響③: ミキサーの構造と信号経路、基本操作実習	5	ライブ振り返りと改善点の分析
6	音響④: EQ(イコライザー)の理論と操作	6	電源管理①: ステージ電源の仕組みと容量計算
7	音響⑤: コンプレッサー・エフェクターの基礎	7	電源管理②: 電圧・電流・アースの安全対策
8	音響⑥: スピーカーシステムとアンプの仕組み	8	トラブルシューティング①: 音響トラブルの診断
9	音響⑦: スピーカーとマイク	9	トラブルシューティング②: 照明・映像トラブル対応
10	音響⑧: 音響システムの接続実習	10	ステージのシステム構築
11	映像①: 映像信号の種類(HDMI・SDI等)	11	ライブの運営方法① 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
12	映像②: プロジェクター・LEDディスプレイの扱い	12	ライブの運営方法② 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
13	映像③: スイッチャー・映像ミキサーの基礎	13	ライブの運営方法③ 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
14	ケーブル・コネクタ①: XLR・TRS・RCAの種類	14	ライブの運営方法④ 定期ライブに向けた、運営企画、作成時間
15	ケーブル・コネクタ②: 電源ケーブルと信号線の違い	15	ライブ振り返りと改善点の分析
16	配線実習①: 音響システムのケーブリング	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 全専攻 シラバス					
授業名	進路・就職対策	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	学校よりの情報伝達、音楽業界全般を知る				
授業概要	伝達事項と業界の研究、就職やデビュー対策を中心に展開				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	筆記用具持参				
担当教員	小松 哲太郎	実務経験			
実務内容	専門学校札幌ビジュアルアーツの就職サポート部署であるキャリアセンターにて、学生指導を担当				

前 期		後 期	
1	オリエンテーションと学習案内(卒業の案件等)	1	伝達事項(学内行事など)、後期の予定と学生がすべきこと
2	校内見学、求人票→1年後はどんな求人を受験できるのかを知る	2	伝達事項(学内行事など)、学校に来ている求人紹介→1年後に備える。自己分析、自分のパーソナリティを知る。
3	伝達事項、業界研究 音楽業界の仕組み(ミュージシャンとスタッフについて)	3	伝達事項(学校行事など) 業界研究 会社の基本とルール、組織など
4	伝達事項、業界研究 (音楽関連の職種、業種について①)	4	伝達事項(学校行事など) ビジネス上のコミュニケーションの大切さ
5	伝達事項、業界研究 (音楽関連の職種、業種について②、契約とデビューについて①)	5	伝達事項(学校行事など) 業界研究/言葉づかい、敬語、など
6	伝達事項、業界研究 (契約とデビューについて②)	6	伝達事項(学校行事など) 業界研究 文書、電子メールのマナー
7	伝達事項、業界研究 (作曲系の仕事について)	7	伝達事項(学校行事など) 定期ライブの準備など 業界研究
8	伝達事項(学内行事など)、夏休みまでの簡単なスケジュール確認。業界研究 夏フェス、イベントについて知る	8	伝達事項(学校行事など) 定期ライブの準備など 業界研究
9	伝達事項(学校行事など)、 業界研究→上半期を振り返る→ヒット曲。	9	伝達事項(学校行事など) 業界研究:今年の音楽シーンの振り返り/ヒットチャート、コンサート動員などから今年の音楽シーンを振り返る
10	伝達事項(学校行事など) 業界研究	10	伝達事項(学校行事など) 冬休み、進路のことを改めて考える。 目指す職種・勤務地を再度考えておく
11	伝達事項(学校行事など) 業界研究個人面談。	11	伝達事項(学校行事など) 進路研究 自分が働いてみたい、興味のある会社を考える
12	伝達事項(学校行事など) 個人面談	12	伝達事項(学校行事など) 進路研究 自分が働いてみたい、興味のある会社を調べてみる②
13	伝達事項(学校行事など) 業界研究、個人面談②	13	伝達事項(学校行事など) 自己分析①履歴書を書く際や面接時に話せるよう自己分析
14	伝達事項(学校行事など) 業界研究 ライブイベント・ビジネスを概観する/ライブイベントの基本的なしくみ、市場規模 など	14	伝達事項(学校行事など) 自己分析② 履歴書を書く際や面接時に話せるよう自己分析
15	伝達事項(学校行事など)音楽ビジネスのしくみ① レコード・ビジネス、インターネット、音楽ビジネスの現状 など	15	履歴書の書き方
16	伝達事項(学校行事など)音楽ビジネスのしくみ② 音楽ビジネスの職種 作詞家・作曲家・プロデューサー など	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 PA&レコーディングエンジニア、PA&照明専攻 シラバス**

授業名	音楽制作実習	学年	1年	単位数	1単位
授業目的	さまざまな楽曲を知り、その成り立ちやその構造の基礎を知る				
授業概要					
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	端 一仁	実務経験	○		
実務内容	音楽大学在学中よりアレンジャーとして、数々の作品を手掛ける。同時に、ホーンセクションプレイヤーとして演奏活動も行う。作曲活動として、CMやイベント、楽曲提供などその範囲は広い。				

前 期		後 期	
1		1	実習の予備知識 ループやオーディオについての説明と使い方
2		2	実習の予備知識 ループのkey調整
3		3	実習④ バンド楽曲を用い楽曲を制作
4		4	実習⑤ バンド楽曲を用い楽曲を制作
5		5	実習⑥ バンド楽曲を用い楽曲を制作
6		6	実習⑦ バンド楽曲を用い楽曲を制作
7		7	予備日
8		8	直近の楽曲 メジャー系やネット上の楽曲の分析①
9		9	直近の楽曲 メジャー系やネット上の楽曲の分析①
10		10	楽曲の歴史を知る メジャー系の楽曲から遡りクラシック音楽まで辿る
11		11	日本の音楽、他国の音楽 邦楽の知識や使用楽器などをネットを使用し説明
12		12	日本の音楽、他国の音楽 エスニック楽曲など様々な国の楽曲をネットを使用し説明
13		13	現代に戻りボーカロイド曲とボーカロイドの使われ方
14		14	ボーカロイドの説明と実習①
15		15	ボーカロイドの説明と実習②

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ミュージッククリエイター専攻 シラバス

授業名	楽曲制作1	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	STUDIO ONEのオペレーションを知る。ファイルや編集など基礎的な知識を得る				
授業概要	楽曲制作をしながら編集などのオペレーションをする				
教科書	なし	成績評価	課題、出席率、取り組みの姿勢		
備考					
担当教員	端 一仁	実務経験	○		
実務内容	音楽大学在学中よりアレンジャーとして、数々の作品を手掛ける。同時に、ホーンセクションプレイヤーとして演奏活動も行う。作曲活動として、CMやイベント、楽曲提供などその範囲は広い。				

前 期		後 期	
1	スタジオワン起動後、初期設定と楽曲が打ち込める仕組みについて	1	SMFへのデータのエクスポート、及びインポート
2	スタジオワンオペレーション各音源の説明	2	MIDI規格について16進数について考える
3	付属のソフトシンセの扱い方と音色について②	3	MIDI規格についてシステムエクスクルーシブについての知識
4	ダイアトニックコードによる進行打ち込み ダイアトニックコードの説明とそのコード進行を打ち込む	4	MIDI規格についてチェックサムの計算
5	制作したコードにメロディーを入れる	5	MIDI規格についてコントロールデータについて
6	INPACTの呼び出しと使用方法 ドラム音源の使い方	6	MIDI規格についてGM系、GSなどMIDI新旧規格について
7	音楽ファイルについての説明、mp-3.wav.aiff等	7	MIDIコマンドの利用と応用について① 編集画面の使い方
8	mp-3のレイトについて、SMFと応用音楽ファイルとMIDIファイルの違いについて	8	MIDIコマンドの利用と応用について② 編集画面以外のコマンドについて
9	インポートとエクスポート スタジオワン以外のファイル形式でエクスポートし、スマホなどで聞いてみる	9	オーディオに関する各コマンド① 波形についての基礎知識
10	スタジオワンの機能 フレーズのコピー	10	オーディオに関する各コマンドと実習② 波形編集の基礎
11	スタジオワンの機能 クオンタイズの説明	11	インポートした楽曲のテンポ合わせ
12	スタジオワンの機能 ベロシティの調整	12	midiのレンダリングについて MIDIをオーディオにしてみる
13	スタジオワンの機能 デュレーションの編集	13	エフェクターの基礎
14	シーケンサーでの簡単なミキシングについて ミックスの画面の説明	14	EQ使用の実際についての実習 周波数帯域の把握
15	ハードウェアとソフトウェアについて 用語の理解	15	各自の楽曲のEQ及びダイナミクス系の処理 コンプレッサーとEQの使用
16	オーディオインターフェースの使い方、応用 PCの音を録音	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ミュージッククリエイター専攻 シラバス

授業名	音楽編集1	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	スタジオに於ける作業の流れを知り機材を使う基礎知識を習得する				
授業概要	スタジオ内でレコーディングと音楽制作のアプリケーションを使用する				
教科書	あり	成績評価	取り組み姿勢、理解度、出席率		
備考	五線ノート				
担当教員	岡本 崇樹	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科卒業後、音響会社やWEB制作会社に勤めたのち、会社を設立。 音響オペレート・レコーディング業務を始めアーティストプロモーションやイベントライブ企画・映像音楽制作・WEB制作・建築などクリエイティブな分野で活躍中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション 授業内容と目的、注意事項	1	シーケンスデータの他アプリケーションでミックスダウン 音源の差し替え 他 アプリケーションの音源を使う
2	スタジオ内での録音等作業の流れについて 各機材の用途の説明	2	音源の差し替え 音源のプリセットデータの調整
3	プロツールズを使い録音のシステムについて アナログ信号の流れ方とデジタル機材内部の説明	3	音源の配信についての知識 配信アプリと配信方法など
4	シーケンサーの音を聞く シーケンスソフトで制作した音源をスピーカーから出す オペレーション	4	音源の配信についての知識 スマホ等で音を聞いてみる
5	マイク、外部入力の説明 録音で使うマイク他外部入力についての操作方法の説明	5	音源の配信についての知識 権利などの知識
6	プロツールズを使いマイクの音を録音① 音の立ち上げと調整	6	パンポット 各楽器におけるパンポットの設定
7	プロツールズを使いマイクの音を録音② マイキングの実習	7	音量バランス 適な音量またはバランスとは？
8	学生の演奏の録音①	8	楽器のマイキング Gt、Bs
9	学生の演奏の録音②	9	楽器のマイキング Dr
10	ミックスダウン、トラックダウン の必要性と実際	10	学生の演奏の録音③
11	ダイナミクス ンプレッサーについての説明と実習	11	学生の演奏の録音④
12	音質調整 音の成分、周波数、イコライジングについて	12	ミックスダウン① 全員または個人で
13	外部出力について FXチャンネル、AUXなど用途、デジタルとアナログの実際	13	ミックスダウン② 全員または個人で
14	リバーブを使用する ボーカルトラックにリバーブを使用する実習	14	plug-in EFFECTの説明 plug-inの説明と種類、メーカーについて
15	ミックスダウン実習 トラックの録音ファイルをミックスダウンする実習	15	plug-inダイナミクス系、空間系、フィルター系
16	様々なアプリケーション 録音、編集、制作などのアプリケーションを知る	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ミュージッククリエイター専攻 シラバス

授業名	音楽編集2	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	DAWの基本操作、作曲、編曲について学ぶ				
授業概要	DAWソフト「Studio one」を利用し、DAWの基礎知識及び作曲・編曲に関わる知識を学ぶ				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	メモをとる、返事を必ず。				
担当教員	平井 隆寛	実務経験	○		
実務内容	PAエンジニア、オペレーターとしてメジャー・インディーズ問わず数多くのアーティストの現場を担当。14歳の時にPCを使用した作曲に目覚め、以降、バンドやDJ等、様々な音楽活動を行い、現在では音楽制作チームSound Ravelにコンポーザーとして所属。オリジナル作品を多く発表するほか、CM音楽、アイドルソング、BGM、ソロシンガー等へ幅広い楽曲を提供、発表している。				

前 期		後 期	
1	DAWとは？DTMとは？ データ転送によるコーライティングやオンラインミックスなど例示して、DAWで何かできるか、なぜ学ぶのかを実感させる。	1	サンプラーの知識① サンプラー(サンプリング素材を取り込んで、インストゥルメントとして使用する)
2	DAWソフトウェアの基本操作① I/Fについて/オーディオ形成について/ソングの新規作成	2	サンプラーの知識② ドラムパッド(16ブロックのドラムサンプラーにオーディオサンプルを読み込み、オリジナルのドラムキットを作成する)
3	DAWソフトウェアの基本操作② 基本的な画面構成、ピアノロールの操作	3	ミックスの応用① マルチアウト/バスグループ・VCAグループ
4	DAWソフトウェアの基本操作③ インストゥルメントの読み込み、ミキサーの操作	4	ミックスの応用② サイドチェイン(コンプレッサーの応用テクニックで、EDMを中心に普及したサイドチェインを用いた音の処理を学ぶ)
5	基礎エディット① リズム打ち込み	5	ミックスの基礎③ オートメーションコントロール(2MIXのカラオケに、歌を録音して乗せる場合の音量コントロールについて解説)
6	基礎エディット② ベース、コードの楽器打ち込み	6	ミックスの基礎④ リファレンス音源を用いたミックス調整/ファイルの書き出し
7	基礎エディット③ オーディオの録音	7	MIDIについて CCやMIDIメッセージなどの使用を学んでおく。
8	基礎エディット④ オーバーダビング・イベントの編集	8	音楽の基本構成① 題材曲を聴きながら、この楽曲はどういう楽器編成、トラック構成、エフェクト処理で作られているかを解析。
9	基礎エディット⑤ 基礎を応用し、リズムの打ち込み、楽器のマルチトラック録音で1フレーズデモを作成。	9	音楽の基本構成② 様々な楽器がどの周波数帯域を主に担当しているかというものをスペクトラムアナライザーを見ながら視覚的に理解する。
10	サウンドメイキング① シンセサイザーでの音作り①	10	制作実習① DAWと音楽の関係性がある程度わかったところで、実際の音楽制作をおこなう。
11	サウンドメイキング② シンセサイザーでの音作り②	11	制作実習② DAWと音楽の関係性がある程度わかったところで、実際の音楽制作をおこなう。
12	サウンドメイキング③ オーディオタイムの編集、タイムストレッチ	12	制作実習③ DAWと音楽の関係性がある程度わかったところで、実際の音楽制作をおこなう。
13	エフェクターの知識① 内蔵プラグインを用いて、変化の分かりやすい空間系のエフェクト(リバンプ、ディレイ)について学ぶ。	13	制作実習④ DAWと音楽の関係性がある程度わかったところで、実際の音楽制作をおこなう。
14	エフェクターの知識② ダイナミクス系プラグイン(EQ、コンプレッサー)について学ぶ	14	制作実習⑤ ミックス〜トラックダウンをおこなう。簡易的にマスタリングをおこない、発表①
15	エフェクターの知識③ モジュレーション系(コーラス、フランジャー)について学ぶ	15	制作実習⑥ ミックス〜トラックダウンをおこなう。簡易的にマスタリングをおこない、発表②
16	エフェクターの知識④ エフェクトの応用。生楽器や声を録音する際のエフェクトなど。	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 ミュージッククリエイター専攻 シラバス**

授業名	商業音楽制作1	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	商業と広告と音楽に関する基礎知識を学び、映像音楽の土台を作る				
授業概要	企画や広告を知り、実際に企画を立てながら映像に音楽を付けていく				
教科書	なし	成績評価	試験実施・その他(制作物の提出、クオリティ、出席率等)		
備考					
担当教員	佐々木 恒平 (AND)	実務経験	○		
実務内容	2006年より作曲活動。近年の主な業務内容は、国内外の企業TVCM、Webなどの広告音楽やサウンドロゴなどの作曲、サウンドディレクションを担当。またブライダルや、ヘアショーやメイクアップショー、アート作家の個展や、サインージなどに幅広く楽曲提供や、サウンドディレクションを担当。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション(授業内容説明、自己紹介等)	1	楽曲研究(評価される音楽の優位点を理解する)
2	思考の言語化(1)	2	広告音楽制作:映像使用と楽曲制作(1)
3	広告音楽(必要となるスキル)	3	広告音楽のスキル:企画演習(1)
4	思考の言語化(2)文章化の能力	4	広告音楽のスキル:企画演習(2)
5	思考の言語化(3)文章化の能力	5	楽曲制作理解:メロディーとアレンジの仕組み(1)
6	広告音楽のスキル:計画書とは	6	広告音楽制作:映像使用と楽曲制作(2)
7	広告音楽のスキル:計画書作成練習	7	楽曲制作理解:メロディーとアレンジの仕組み(2)
8	広告音楽のスキル:サウンドロゴ制作演習(1)	8	広告音楽制作:映像使用と楽曲制作(3)
9	思考の言語化(4)文章化の能力	9	楽曲制作理解:メロディーとアレンジの仕組み(3)
10	客観性を養う:客観性とは、を考える(1)	10	広告音楽制作:映像使用と楽曲制作(4)
11	広告音楽のスキル:サウンドロゴ制作演習(2)	11	楽曲制作理解:メロディーとアレンジの仕組み(4)
12	客観性を養う:文章化する(2)	12	広告音楽制作:映像使用と楽曲制作(5)
13	広告音楽のスキル:サウンドロゴ制作演習(3)	13	楽曲制作理解:メロディーとアレンジの仕組み(5)
14	ツアー計画:計画書作成練習(3)	14	楽曲制作理解:メロディーとアレンジの仕組み(6)
15	客観性を養う:文章化する(3)	15	プレゼンテーション:映像を使用した楽曲制作発表
16	広告音楽のスキル:サウンドロゴ制作演習(4)	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス**

授業名	音楽概論	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	演奏に於けるリズムとは何を指すかを知り、リズムの奥深さを感じ、今後の演奏に活かす基礎作り				
授業概要					
教科書	あり	成績評価	取り組み姿勢、理解度、試験、出席率		
備考	五線ノート				
担当教員	端 一仁	実務経験	○		
実務内容	音楽大学在学中よりアレンジャーとして、数々の作品を手掛ける。同時に、ホーンセクションプレイヤーとして演奏活動も行う。作曲活動として、CMやイベント、楽曲提供などその範囲は広い。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション 授業内容と目的、注意事項	1	インターバルを使いコードを作る② +-5th系コード
2	音についての理解 ノート、楽音と楽譜、譜面についての基礎	2	dimlについての説明
3	譜面について 読み方と表記のしかた	3	度数の詳細の把握し完全なインターバルを理解⑤ VI
4	音符とリズムについての導入 拍、拍子とリズムの関係性の概念	4	インターバルを使いコードを作る② 6thコード
5	音楽概論の捕らえ方について 鍵盤楽器と弦楽器に於ける構造、奏法上の違い	5	T.D.SDの再説明とドミナントモーション
6	音楽、楽曲とスケールの関係性 キーとスケールの関係性の説明	6	キーチェンジとモーダルインターチェンジ
7	スケールの理解①-1 導入とホールトーン、クロマチックについての説明及び ダイアトニックコード	7	SDマイナーとDマイナーについての使い方
8	各メジャースケールの理解①-1 スケール読み取りと記譜、T.D.SDの説明	8	マイナースケール 3種のマイナースケールの習得
9	インターバルについての説明 度数の存在を理解する	9	9thのインターバルとコード
10	度数の詳細の把握し完全なインターバルを理解① III	10	ソルフェージュ① 導入:いい耳を持つ事の大切さ、コール&レスポンス
11	度数の詳細の把握し完全なインターバルを理解② V	11	ソルフェージュ② スケール内の音を聞き分ける
12	インターバルを使いコードを作る① メジャーコード	12	ソルフェージュ③ リズムを記憶する練習
13	インターバルを使いコードを作る② マイナーコード、再度ダイアトニックコードの説明	13	スコアライティング① リズム譜の書き方を習得する
14	度数の詳細の把握し完全なインターバルを理解③ VII	14	スコアライティング② シンコペーションとその記譜のしかた
15	インターバルを使いコードを作る② 7thコード	15	ソルフェージュ④ メロディー譜の制作
16	度数の詳細の把握し完全なインターバルを理解④ IVとsus4コード	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス

授業名	音楽制作1	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	楽曲制作の基礎作り				
授業概要	シーケンサーにより作曲、アレンジ制作				
教科書		成績評価			
備考					
担当教員	端 一仁	実務経験			
実務内容	音楽大学在学中よりアレンジャーとして、数々の作品を手掛ける。同時に、ホーンセクションプレイヤーとして演奏活動も行う。作曲活動として、CMやイベント、楽曲提供などその範囲は広い。				

前 期		後 期	
1	授業の説明、メロディーとはなにか	1	他人へ提供するメロディーの制作①
2	モチーフの練習	2	提供するメロディーの制作②
3	モチーフを使いメロディー制作	3	提供するメロディーのアレンジコンセプト
4	制作したモチーフの展開	4	メロディーのアレンジ、「リズムアレンジ」
5	簡単なコードとハーモナイズの基礎	5	メロディーのアレンジ「ハーモナイズ、リフ」
6	各自のメロディにハーモナイズしてみよう	6	歌う人の顔を浮かべてアレンジを考えよう
7	ダイアトニックコード、定義と実践	7	歌詞とメロディーの関係性について
8	ノンダイアトニックコードの聴き比べと実践	8	既存の歌詞でメロディー制作をしてみよう①
9	メロディにオンコードを付ける	9	既存の歌詞でメロディー制作をしてみよう②
10	オンコードとオンコードを使ったクリシェ	10	単語と言ひ回し、イントネーションと歌詞、メロディーの関係
11	4度進行の実践	11	制作済みのメロディーと歌詞について変更してみよう
12	よく使われるコード進行集① I .IV .V ~	12	譜割、単語、メロディー、イントネーションの関係性
13	よく使われるコード進行集②それ以外	13	ハーモナイズまたはリハーモナイズ制作②
14	アカペラデータのハーモナイズ実習①	14	ハーモナイズまたはリハーモナイズ制作③
15	アカペラデータのハーモナイズ実習②	15	まとめ制作
16	ドラムについて、リズムパターン	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス					
授業名	ローディー	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	楽器の基礎知識や演奏方法、楽器関係の周辺機器の使用法を学ぶ				
授業概要	楽器の扱い方や楽器に関する機材の使用法の習得 ローディーに必要な音楽知識の習得				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	動きやすい服装、メモをとる、返事を必ず				
担当教員	斉藤 彰宏	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科を卒業後、スタジオスタッフとして勤務。 バンド活動と並行しアーティストのサポート等ベーシストとしても活動。				

前 期		後 期	
1	授業説明 ローディーの仕事の紹介 必要な知識のことなど。	1	エフェクターについて① 楽器用コンパクトエフェクターの紹介。 種類や効果の確認。使用理由の紹介。
2	ドラムについて① ドラムの構造。各パーツの説明。 名称の確認。	2	エフェクターについて② 実際のセッティング例の紹介。 トラブルシューティングの練習…トラブル対応
3	ドラムについて② ドラムの組み立て方や説明。 セッティングの種類や使い方の紹介。	3	アンプの応用 センド・リターン機能の説明。 実際のセッティング例の紹介。
4	ドラムについて③ 特殊なセッティングの紹介と実践	4	楽器の基礎知識① ギターやベースなどの構造の確認。名称の説明。
5	ドラムについて④ 少人数でのドラムセッティングの実践①	5	楽器の基礎知識② ギターとベースのチューニング
6	ドラムについて⑤ 少人数でのドラムセッティングの実践②	6	楽器の基礎知識③ オクターブチューニングについて。 通常のチューニングとの違いについて。
7	楽器用アンプについて① アンプの種類を紹介。 例：ギターアンプやベースアンプなど。	7	楽器の基礎知識④ 楽器のコンディションとセッティングによるプレイアビリティの説明。
8	楽器用アンプについて② アンプの詳細についての紹介。 スタックやコンボ、ワット数やオームの確認。	8	楽器の基礎知識⑤ ネックの反りについての確認。症状と調整方法の紹介。 それらの実践。
9	楽器用アンプについて③ ギターアンプから音を出す方法の確認。 メーカーや種類についての紹介。	9	復習 楽器、アンプ、エフェクターの知識確認のために トラブルシューティングの練習。
10	楽器用アンプについて④ 1人づつギターアンプから音を出せるようにする。 各つまみの紹介や効果の確認。	10	ケーブル作成① ケーブルの種類についての紹介。 標準フォンのケーブル作成、はんだこての使用法。
11	楽器用アンプについて⑤ ベースアンプから音を出す方法の確認。 メーカーや種類についての紹介。	11	ケーブル作成② ケーブルの種類についての紹介。 標準フォンのケーブル作成。
12	楽器用アンプについて⑥ 1人づつギターアンプから音を出せるようにする。 各つまみの紹介や効果の確認。	12	ケーブル作成③ キャノンプラグ（マイクケーブル）の作成。
13	楽器用アンプについて⑦ キーボードアンプから音を出す方法の確認。 メーカーや種類についての紹介。	13	ケーブル作成④ キャノンプラグ（マイクケーブル）の作成のつづき。
14	楽器用アンプについて⑧ 1人づつキーボードアンプから音を出せるようにする。 各つまみの紹介や効果の確認。	14	ケーブル作成⑤ 標準フォンからキャノンへの変換ケーブル作成。
15	前期の復習① 前期に学んだドラム、アンプの知識を使い実際にセットを組む。	15	ケーブル作成⑥ 標準フォンからキャノンへの変換ケーブル作成の続き。
16	前期の復習② バンドセットのバリエーション紹介。 少人数でのセッティングと音出し。	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム専攻 シラバス**

授業名	DAWサウンドメイキング	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	DAWをとりまく新しいテクノロジーを使用した演奏形態に触れ対応力をつける				
授業概要	DAWアプリケーションとバンド形式の編成で企画、録音からMIXまで、作品のアイデアを出し合い音に反映させる				
教科書	なし	成績評価	課題、取り込み、出席率		
備考					
担当教員	稲毛 雄太	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。様々なジャンルにおいて数多くのアーティストのライブサポート、レコーディングに参加。自身のギタースクールを主宰する傍ら、複数の音楽教室に従事。インストバンド「SUPER GHETTI」のギタリストとしても活動中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション この授業の目的、DAWについて、現場ではどう使われているかなどを説明	1	PAD、SEQUENCE PATTERNとクリックに合わせることの説明
2	DAWおよびデジタル機器についての知識 シーケンスアプリケーションやPlug-inとは？	2	既成楽曲にPADやSEQUENCE PATTERNをプログラムしたものに合わせて演奏をする①
3	Voを録りDAWを使用する I/Oの仕組みと前後信号の流れ、micセッティング	3	既成楽曲にPADやSEQUENCE PATTERNをプログラムしたものに合わせて演奏をする②
4	DAW操作方法 Vo録りをしながら基本操作を覚える、Voの学生は歌い、楽器の学生はオペレーションをする	4	同期音源のパラメーターを操作する カットオフフィルター、レゾナンスの関係について知る
5	楽器を録るためにバンド形式でセッション練習	5	Plug-in Effectorを使う① ダイナミクス、EQ、空間系の使用前、使用後
6	楽器を録るためにバンド形式でセッション練習	6	Plug-in Effectorを使う② モジュレーション系、ディレイの使用前、使用後
7	楽器のマイキングの説明と実習 ギター、ベースアンプの説明とMIC、LINE録り、Voの学生がオペレーションをする	7	録音実習 学生同士で楽曲決め、練習②-①
8	ギター、ベースをDAWで録音する MICとLINEの違い、インターフェース、hi-zについて説明し、MICとLINEの聞き比べをする	8	録音実習 学生同士で練習②-②
9	ドラムの部品、セッティング ドラムセットの各部品を知りゼロの状態からセッティングをする。ドラムの学生は皆に指示をする。	9	録音実習 学生同士で録音の練習②-③
10	ドラムのマイキング基礎 マイクの本数による位置の違いを知り、セットする実習	10	録音実習 学生同士で録音の練習②-④
11	前週のおさらいと録音	11	ミックスダウンの実践 ランス取り、CompやEQなどPlug-in使用を実践
12	全体の一発録り ブースを複数使って録る	12	ミックスダウンの実践 ランス取り、CompやEQなどPlug-in使用を実践②
13	録音実習 学生同士で録音の実習①	13	オーディオデータの編集 編集によって何ができるのか？ 波形でブレイクを作る等の実習
14	録音実習 学生同士で録音の実習②	14	サイドチェーンの基礎
15	打ち込み音源と一緒に DTM系教室で予め打ち込んだものを使い同期で演奏する①	15	1年間のおさらいとDAWとバンドのこれからの可能性についてディスカッション
16	打ち込み音源と一緒に DTM系教室で予め打ち込んだものを使い同期で演奏する②	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ミュージッククリエイター専攻 シラバス

授業名	エンタメビジネス基礎	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	人に伝える方法とマネジメントの仕方について学ぶ				
授業概要	楽曲を演奏する事だけではなく音以外で人に伝える方法やマネジメントする側の立場を学ぶ				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	桑尾 哲郎	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。バンド「TRASH AUDIO」にてJOIN ALIVE2014に出演。その後、「夢チカレコード」に所属し、ミニアルバム「One Of The Timeless」を全国発売。現在はロックバンド「CPRNX」「haku。」のギタリストとして活動中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション 授業内容の説明。	1	人に伝える② マインドセット 人に伝わる方法と自己成長のマインドを学ぶ。
2	目標設定について 業界就職に向けて、どのようなスキルが必要になるか、現状の課題を洗い出し、夢に向けた目標を再設定。	2	WEBマガジン運営⑧ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
3	WEBマガジン運営① WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	3	インタビュー② 人の魅力の引き出し方、会話の引き出し方を学ぶ。
4	ライティング WEBマガジンコンテンツのライタースキルを向上させるためライティングを学ぶ。	4	WEBマガジン運営⑨ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
5	マインドセット 経験や先入観から形成される試行や思い込みを取り払う。	5	集客 様々なイベントへの集客方法を学ぶ
6	WEBマガジン運営② WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	6	WEBマガジン運営⑩ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
7	イベント企画 イベントの企画。人に印象に残るイベントを理解し、自ら考えるようになる。	7	アーティストマネジメント② アーティストマネジメントの基礎のまとめ
8	WEBマガジン運営③ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	8	コミュニケーション/目標達成① コミュニケーション能力を高め、目標達成に必要な考え方を学ぶ
9	アイデアの生み出し方 アイデアを生み出す方法と生かし方を学ぶ	9	WEBマガジン運営⑪ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
10	WEBマガジン運営④ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	10	イベント企画の立案 イベント企画を様々な角度から考えられるようにする。
11	人に伝える① 表現方法を変えて、人に伝える方法を学ぶ	11	WEBマガジン運営⑫ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
12	WEBマガジン運営⑤ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	12	企画力向上の7つのポイント 宿題である企画を発表。イベント企画の発表と今までのおさらいと企画力向上のポイントを伝える。
13	アーティストマネジメント① アーティストマネジメントの基礎	13	WEBマガジン運営⑬ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
14	WEBマガジン運営⑥ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	14	コミュニケーション/目標達成② コミュニケーション能力を高め、目標達成に必要な考え方を学ぶ
15	インタビュー① 人の魅力の引き出し方、会話の引き出し方を学ぶ。	15	WEBマガジン運営⑭ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
16	WEBマガジン運営⑦ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム専攻 シラバス**

授業名	バンドアンサンブル	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	バンド演奏の経験と演奏の基礎能力を習得する				
授業概要	演奏楽曲を決め、それぞれのパートを担当。ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのバンド形式での演奏の基礎を習得				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、理解度、出席数		
備考	楽器、使用機材、ノートと五線ノート、ヘッドフォンまたはイヤフォンを各自用意				
担当教員	稲毛 雄太	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。様々なジャンルにおいて数多くのアーティストのライブサポート、レコーディングに参加。自身のギタースクールを主宰する傍ら、複数の音楽教室に従事。インストバンド「SUPER GHETTI」のギタリストとしても活動中。				

前 期		後 期		
1	オリエンテーション 各パート決めとその場でできる楽曲の演奏	1	洋楽演奏: 英語の楽曲を体験(1)	
2	楽曲の聴き方とコピー① 各フレーズとリズムを聞く	2	洋楽演奏: 英語の楽曲を体験(2)	
3	楽曲の聴き方とコピー② 構成についての説明	3	洋楽演奏: 英語の楽曲を体験(3)	
4	アンサンブルの基礎① 周囲の音と全体のテンポについて	4	ビートについて学ぶ③ 6ビートと16分音符について	
5	アンサンブルの基礎② 体を聞き、テンポを合わせる練習	全	5	ビートについて学ぶ③ 6ビートのアクセントとノリについて
6	アンサンブルの基礎③ マスターテンポに合わせる練習	6	ビートについて学ぶ③ 16ビートの楽曲を練習、演奏	
7	ビートについて学ぶ① 8ビートと8分音符について	7	楽曲構成: 構成の基礎を学ぶ② イントロ、間奏、ソロについて	
8	ビートについて学ぶ② アクセントの練習と体を使った練習	8	楽曲構成: 構成に変化をつけるアイデア(1)	
9	総合演奏: 8ビートの楽曲アンサンブル練習(1)	9	楽曲構成: 構成に変化をつけるアイデア(2)	
10	総合演奏: 8ビートの楽曲アンサンブル練習(2)	10	シンコペーションの基礎(1)	
11	楽曲の構成: 楽曲構成の基礎を学ぶ。	11	シンコペーションの基礎(2)	
12	音色について: ニュアンスを各セクションのタッチの違い(1)	12	メロディーとコーラスの関係を学ぶ	
13	音色について: ニュアンスを各セクションのタッチの違い(2)	13	メロディーとコーラスの実践	
14	メロディについて: メロディーラインを考える	14	総合演奏: アンサンブル練習(1)	
15	メロディについて: 各セクションのメロディーの重要性を認識する	15	総合演奏: アンサンブル練習(2)	
16	総合演奏: 8ビートの楽曲アンサンブル練習(3)	16		

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム専攻 シラバス**

授業名	リズムレッスン	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	演奏に於けるリズムとは何を指すかを知り、リズムの奥深さを感じ、今後の演奏に活かす基礎作り				
授業概要					
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、理解度、出席率		
備考	各楽器、スティック持参、必要に応じ譜面を配布				
担当教員	稲毛 雄太	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。様々なジャンルにおいて数多くのアーティストのライブサポート、レコーディングに参加。自身のギタースクールを主宰する傍ら、複数の音楽教室に従事。インストバンド「SUPER GHETTI」のギタリストとしても活動中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション 授業内容と目的、注意事項	1	リリースタイムの応用① 切る力をつけるトレーニング
2	音符と音価についての基礎 既成楽曲を使用	2	リリースタイムの応用② 切り方をコントロールするトレーニング
3	各楽器の発音の仕組みやその違いについて	3	アップビートとダウンビートについての知識① 知識と導入
4	リリース及びディケイとリリースタイムについての知識	4	アップビートとダウンビートについての知識② ビートを意識しながらの演奏トレーニング
5	カウントと4分音符を理解する カウントに合わせて4分音符を鳴らす	5	アクセントとビートの関係性を知る ビートの成り立ちについての知識
6	8分音符中心の楽曲の説明と演奏	6	ビートを理解したうえでのアンサンブル
7	「合わせること」の基礎習得① 全員の音に合わせる	7	アウフタクトの知識 譜面を使いアウフタクトを目で見る
8	「合わせること」の基礎習得② 特定の人に合わせるトレーニング	8	シンコペーションについての知識①
9	「合わせること」の基礎習得③ (1)クリックを使って音を出す練習	9	シンコペーションについての知識② シンコペーションの楽曲を演奏し意識する
10	クリックを使って音を出す練習③ (2)テンポを落とした楽曲をイメージするトレーニング	10	シンコペーションの応用 場所、ノートレングス、リリースタイムを変化させ演奏し、どのように変化するかを体感する
11	クリックを使って音を出す練習③ (3)テンポを落とした楽曲をイメージするトレーニング	11	ゴーストノート、ブラッシング① 予備知識
12	クリックを使って音を出す練習③ (4)テンポを落とした状態でアーティキレーションを変化させるトレーニング	12	ゴーストノート、ブラッシング② 楽曲に取り入れ、フレーズの比較をする
13	クリックを使って音を出す練習③ 徐々にテンポを上げていくトレーニング (5)	13	ピッチとリズムについて① ボーカルと楽器のピッチについての知識
14	BPMの早い楽曲、遅い楽曲の比較、聞き比べ	14	ピッチとリズムについて② ヴォーカルのしゃくりとフォールにリズムを感じるトレーニング
15	音のスピードについての実習① 発音にスピードがあることを知る	15	ピッチとリズムについて③ チョーキングとスライド
16	音のスピードについての実習② 様々な音のスピードで演奏する	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ギター、ベース、ドラム専攻 シラバス

授業名	JAM	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	インスト編成でのバンド演奏を通じ、フレージングやリズム、コミュニケーションについて学ぶ				
授業概要	JAMセッションの基礎の習得				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	各自で楽器の用意				
担当教員	斉藤 彰宏	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科を卒業後、スタジオスタッフとして勤務。 バンド活動と並行しアーティストのサポート等ベーシストとしても活動。				

前 期		後 期	
1	授業の概要の説明。 セッションの基本とブルースについて説明	1	セッションの定番曲をコピー ジャズの楽曲をテーマに
2	①ブルースセッション	2	①ジャズ系の楽曲でセッション
3	②ブルースセッション	3	②ジャズ系の楽曲でセッション
4	③ブルースセッション	4	③ジャズ系の楽曲でセッション
5	④ブルースセッション	5	④ジャズ系の楽曲でセッション
6	セッション定番楽曲のコピー 8ビートをテーマに	6	セッションの定番曲をコピー 16ビートの楽曲をテーマに
7	①8ビートの楽曲でセッション	7	①16ビートの楽曲でセッション
8	②8ビートの楽曲でセッション	8	②16ビートの楽曲でセッション
9	③8ビートの楽曲でセッション	9	③16ビートの楽曲でセッション
10	④8ビートの楽曲でセッション	10	④16ビートの楽曲でセッション
11	⑤8ビートの楽曲でセッション	11	⑤16ビートの楽曲でセッション
12	セッション定番楽曲のコピー シャッフル(3連)をテーマ	12	セッション定番曲のコピー 歌物をテーマに
13	①シャッフルの楽曲でセッション	13	①歌物楽曲でセッション
14	②シャッフルの楽曲でセッション	14	②歌物楽曲でセッション
15	③シャッフルの楽曲でセッション	15	③歌物楽曲でセッション
16	④シャッフルの楽曲でセッション	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

## 2026年度 全専攻 シラバス

授業名	音楽業界研究	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	学校よりの情報伝達、音楽業界全般を知る				
授業概要	伝達事項と業界の研究、就職やデビュー対策を中心に展開				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	筆記用具持参				
担当教員	斉藤 彰宏	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科を卒業後、スタジオスタッフとして勤務。 バンド活動と並行しアーティストのサポート等ベーシストとしても活動。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーションと学習案内(卒業の案件等)	1	伝達事項(学内行事など)、 後期の予定と学生がすべきこと
2	校内見学、求人票→1年後はどんな求人を受験できる のかを知る	2	伝達事項(学内行事など)、学校に来ている求人紹介 →1年後に備える。自己分析、自分のパーソナリティを 知る。
3	伝達事項、業界研究 音楽業界の仕組み(ミュージシャンとスタッフについて)	3	伝達事項(学校行事など) 業界研究 会社の基本とルール、組織など
4	伝達事項、業界研究 (音楽関連の職種、業種について①)	4	伝達事項(学校行事など) ビジネス上のコミュニケーションの大切さ
5	伝達事項、業界研究 (音楽関連の職種、業種について②、契約とデビュー について①)	5	伝達事項(学校行事など) 業界研究/言葉づかい、敬語、など
6	伝達事項、業界研究 (契約とデビューについて②)	6	伝達事項(学校行事など) 業界研究 文書、電子メールのマナー
7	伝達事項、業界研究 (作曲系の仕事について)	7	伝達事項(学校行事など) 定期ライブの準備など 業界研究
8	伝達事項(学内行事など)、夏休みまでの簡単なスケ ジュール確認。業界研究 夏フェス、イベントについて知る	8	伝達事項(学校行事など) 定期ライブの準備など 業界研究
9	伝達事項(学校行事など)、 業界研究→上半期を振り返る→ヒット曲。	9	伝達事項(学校行事など) 業界研究: 今年の音楽シーンの振り返り/ヒットチャー ト、コンサート等
10	伝達事項(学校行事など) 業界研究	10	伝達事項(学校行事など) 冬休み、進路のことを改めて考える。 目指す職種: 勤務地を再度考えておく
11	伝達事項(学校行事など) 業界研究個人面談。	11	伝達事項(学校行事など) 進路研究 自分が働いてみたい、興味のある会社を考 える
12	伝達事項(学校行事など) 個人面談	12	伝達事項(学校行事など) 進路研究 自分が働いてみたい、興味のある会社を調 べてみる②
13	伝達事項(学校行事など) 業界研究、個人面談②	13	伝達事項(学校行事など) 自己分析①履歴書を書く際や面接時に話せるよう自 己分析
14	伝達事項(学校行事など) 業界研究 ライブイベント・ビジネスを概観する/ライブ イベントの基本的なしくみ、市場規模 など	14	伝達事項(学校行事など) 自己分析② 履歴書を書く際や面接時に話せるよう自己分析
15	伝達事項(学校行事など) 音楽ビジネスのしくみ①レコード・ビジネス、インター ネット、音楽ビジネスの現状 など	15	履歴書の書き方
16	伝達事項(学校行事など) 音楽ビジネスのしくみ② 作詞家・作曲家・プロデューサー など	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ヴォーカル専攻 シラバス

授業名	ヴォーカルレッスン	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	発声技術・表現力・ステージパフォーマンス能力を体系的に身につける				
授業概要	発声法・呼吸法・音程感覚のトレーニングから始め、徐々にリズムトレーニング・表現力強化・ジャンル別歌唱法へと発展				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、歌唱内容		
備考	ノートと筆記用具持参				
担当教員	Vicky Vee	実務経験	○		
実務内容	アメリカ・オハイオ州シンシナティ出身のR&Bシンガー、ソングライター、プロデューサー。シンシナティを中心に音楽活動、シンシナティのMiss Black Teenage America初代優勝者。来日後、角松敏生プロデュースのアルバムを発表、FMノースウエイブのラジオパーソナリティ等、多彩な活動を展開。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション・発声の基礎理解	1	呼吸とブレスコントロール
2	正しい姿勢と呼吸法(腹式呼吸)	2	ロングトーンと安定した音の保持
3	声帯の仕組みとウォーミングアップ	3	音域拡張トレーニング(高音)
4	明瞭な発声のための母音練習	4	音域拡張トレーニング(低音)
5	声の響きを豊かにするための共鳴練習	5	発声スタイル研究(ポップス)
6	音程トレーニング①(ピッチ感覚)	6	発声スタイル研究(ロック)
7	音程トレーニング②(ピッチ感覚)	7	発声スタイル研究(バラード)
8	音程トレーニング③(メロディ再現)	8	マイクテクニック①(基礎)
9	音程トレーニング④(メロディ再現)	9	マイクテクニック②(実践)
10	発声練習応用①(強弱・抑揚)	10	グループ歌唱①(ハーモニー基礎)
11	発声練習応用②(強弱・抑揚)	11	グループ歌唱②(コーラス練習)
12	リズムトレーニング①(基礎リズム)	12	ソロパフォーマンス①(選曲・構成)
13	リズムトレーニング②(シンコペーション)	13	ソロパフォーマンス②(表現練習)
14	日本語の歌詞発音トレーニング	14	音楽理論基礎(キー・コード理解)
15	英語の発音・リズム	15	リズム応用(グルーブ感)、パフォーマンス発表と講評
16	表現力トレーニング(感情・身体表現)	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ヴォーカル専攻 シラバス

授業名	ヴォーカルレッスン	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	歌うための声づくりの基礎技術の習得をする				
授業概要	ベーシックと課題曲、自由曲に取り組み、歌唱の実践を学ぶ				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、歌唱内容		
備考	ノートと筆記用具持参				
担当教員	青山 浩之	実務経験	○		
実務内容	ヒロ青山名義で、これまでに日テレ「ものまねバトル大賞」、日テレ「99プラス」、フジ「ウチくる」、TBS「激突ものまねウォーズ」などの番組に出演。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション:自己紹介、初回質問受付、授業展開説明	1	オリエンテーション:ミニライブ
2	声についての基礎知識:声の仕組み、呼吸法の基礎	2	基礎知識復習:前期基礎トレーニングの確認と応用
3	ウォーミングアップ方法、楽曲の聴き方、コピー方法	3	音程練習:ピッチトレーニング(1)
4	ディレクション:課題曲練習(1)	4	音程練習:ピッチトレーニング(2)
5	ディレクション:課題曲練習(2)	5	音程練習:ピッチトレーニング(3)
6	リズムトレーニング:洋楽自由曲練習(1)	6	譜割りの理解とメロディー(1)
7	リズムトレーニング:洋楽自由曲練習(2)	7	譜割りの理解とメロディー(2)
8	作詞:メロディーを歌詞の関係性、作詞の基礎	8	オリジナル楽曲の作詞講座(1) フルコーラスの歌詞を制作する
9	ディレクション:課題曲と自由曲レッスン(1)	9	オリジナル楽曲の作詞講座(2) フルコーラスの歌詞を制作する
10	ディレクション:課題曲と自由曲レッスン(2)	10	オリジナル楽曲の作詞講座(3) 歌詞まとめ
11	ディレクション:課題曲と自由曲レッスン(3)	11	発音と滑舌、声の表現法(1)
12	ディレクション:課題曲と自由曲レッスン(4)	12	発音と滑舌、声の表現法(2)
13	楽曲まとめ学習:ミニライブ	13	ビブラートについての知識、実践
14	基礎総合演習:基礎トレーニングの解説と実践(1)	14	楽曲まとめ:ミニライブ
15	基礎総合演習:基礎トレーニングの解説と実践(2)	15	表現総合演習:課題曲
16	作詞:作詞の実践 歌詞を研究し詩と詞の違いを学習する①	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ヴォーカル専攻 シラバス			
授業名	ヴォーカルパフォーマンス	学年	1年
		単位数	2単位
授業目的	自己表現力と音楽的表現力の深化		
授業概要	ヴォーカル専攻学生を対象に、より実践的なパフォーマンス力を養う		
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、歌唱内容
備考	ノートと筆記用具持参		
担当教員	佐藤 風香	実務経験	○
実務内容	札幌ビジュアルアート音響学科ヴォーカル専攻卒業後、全国展開の音楽スクールにてヴォーカルインストラクター、ヴォーカルトレーナーを担当。		

前 期		後 期	
1	ガイダンス／授業目的と年間目標の共有	1	後期ガイダンス／課題と目標の確認
2	ステージパフォーマンスの基本理解(姿勢・表情)	2	曲の選定とセルフプロデュース(自己表現の方向性) ①
3	発声・呼吸法の再確認(ライブ対応の発声)	3	曲の選定とセルフプロデュース(自己表現の方向性) ②
4	身体の使い方(重心・動作・姿勢トレーニング)	4	発声応用(高音・シャウト・ミックスボイス)
5	リズム感強化(体のリズムと歌の一体化)①	5	表現技法(フェイク・ビブラートなど)
6	リズム感強化(体のリズムと歌の一体化)②	6	音楽ジャンル別の表現(ポップス①)
7	音程安定トレーニング(ピッチ精度向上)①	7	音楽ジャンル別の表現(ポップス②)
8	音程安定トレーニング(ピッチ精度向上)②	8	音楽ジャンル別の表現(ポップス③)
9	ダイナミクス表現(強弱・緩急の表現力)	9	音楽ジャンル別の表現(ロック①)
10	感情表現と歌詞理解(曲のストーリー分析)	10	音楽ジャンル別の表現(ロック②)
11	表情と視線の使い方(観客とのコミュニケーション)	11	音楽ジャンル別の表現(ロック③)
12	音量・テンポ合わせ	12	音楽ジャンル別の表現(R&B①)
13	曲中の動きとポージング練習	13	音楽ジャンル別の表現(R&B②)
14	マイクテクニック(距離と声質コントロール)①	14	音楽ジャンル別の表現(R&B③)
15	マイクテクニック(距離と声質コントロール)②	15	ライブ形式発表
16	パフォーマンス発表	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ギター、ベース、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス

授業名	副科ヴォーカルレッスン	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	音楽的表現力を高め、演奏に説得力を持たせる				
授業概要	ステージ表現や音楽理解を深めるためにヴォーカルの基礎を学ぶ				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、歌唱内容		
備考	ノートと筆記用具持参				
担当教員	櫻井 すみか	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科ヴォーカル専攻卒業後、全国展開の音楽スクールにてヴォーカルインストラクター、ヴォーカルトレーナーを担当。				

前 期		後 期	
1	ガイダンス／発声の基礎理解と目標設定	1	歌詞のリズム読みとアクセント練習①
2	正しい姿勢と呼吸法(腹式呼吸の練習)	2	歌詞のリズム読みとアクセント練習②
3	声帯の仕組みと安全な発声法	3	呼吸コントロールとロングトーン練習①
4	リップロール・ハミングによるウォームアップ	4	呼吸コントロールとロングトーン練習②
5	音程感覚トレーニング①(キーボードを使った練習)	5	表現力トレーニング(感情表現・強弱)①
6	音程感覚トレーニング②(キーボードを使った練習)	6	表現力トレーニング(感情表現・強弱)②
7	リズム感強化①(打楽器との連動)	7	マイクの使い方(距離と角度の調整)
8	リズム感強化②(打楽器との連動)	8	簡単なアンサンブル実践①(リズム隊と歌)
9	発声練習 I (母音の明瞭化)	9	簡単なアンサンブル実践②(リズム隊と歌)
10	発声練習 II (子音のアタックと明瞭度)	10	課題曲練習①
11	音域の確認と拡張トレーニング①	11	課題曲練習②
12	音域の確認と拡張トレーニング②	12	課題曲練習③
13	短いフレーズの歌唱練習①(ポップス曲)	13	課題曲練習④
14	短いフレーズの歌唱練習②(ポップス曲)	14	発表会形式の実践
15	曲の構成理解(Aメロ・Bメロ・サビ)	15	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 ギター専攻 シラバス**

授業名	ギターレッスン	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	エレキギターの基礎演奏技術から応用的な表現力までを体系的に習得				
授業概要	エレキギターの演奏フォーム、リズム感、スケール理解、音作りなどの基礎を学ぶ				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、試験等		
備考	五線ノートと筆記用具持参				
担当教員	吉田 延彦	実務経験	○		
実務内容	数多くのアーティストのライブサポート、レコーディングに参加。専門学校札幌ビジュアルアーツ音響学科ギター講師として20年以上にわたり、後進の指導を務める。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション／機材の扱い方とチューニング基礎	1	ブリッジミュートの安定化
2	ギターの構造理解とピッキングフォーム確認	2	フィンガリングのスピードアップ練習
3	左手運指練習とクロマチックトレーニング	3	コード理論入門:ダイアトニックコード理解
4	メジャースケールの構成と運指パターン	4	短調スケール(マイナースケール)の運指
5	パワーコードの押さえ方とリズム練習	5	リードプレイ基礎:ペンタトニックスケール練習
6	ブルース進行(12小節)の理解と演奏	6	基礎フレーズとリズム総復習
7	リズムトレーニング:8ビートと16ビート	7	サウンドメイクとエフェクター理解
8	ミュート奏法とカッティング基礎	8	ディストーションサウンドの特徴と使い方
9	ロックフレーズのコピー演習	9	ロック・メタルリフ演奏
10	バックイング演奏の基礎:コードチェンジの安定化	10	ファンクカッティング
11	オープンコードの習得とコードストローク	11	ポップスのリズムギター
12	メトロノームを使ったテンポキープ練習	12	16ビートのストロークとグルーヴ感養成
13	ロック系リフの構築と演奏精度向上	13	テンションコードの押さえ方と実践
14	スライド・ハンマリング・プリング練習	14	コード進行に対するスケール選択の基礎
15	コード進行に合わせたリズム練習	15	ツインギターのハーモニー練習、実技チェック
16	クリーントーンでのアルペジオ演奏、実技チェック	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ギター専攻 シラバス					
授業名	ギターレッスン	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	ギター奏法の基礎を学ぶ				
授業概要	基礎から見つめ直し、今後の応用テクニックに耐えうる無理のない奏法を身に付ける				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、試験等		
備考	五線ノートと筆記用具持参				
担当教員	稲毛 雄太	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。 様々なジャンルにおいて数多くのアーティストのライブサポート、レコーディングに参加。自身のギタースクールを主宰する傍ら、複数の音楽教室に従事。インストバンド「SUPER GHETTI」のギタリストとしても活動中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション:自己紹介、初回質問受付、授業展開説明	1	イヤートレーニング(2)コピー力の質向上
2	各音符・休符の意識リズム譜の熟読及び音読、クリック練習の習慣付け。身体の一部で拍をとりながらの演奏(1)	2	リズムトレーニング(1):8ビート、16ビートアプローチ
3	各音符・休符の意識リズム譜の熟読及び音読、クリック練習の習慣付け。身体の一部で拍をとりながらの演奏(2)	3	リズムトレーニング(2):音価の区分
4	フォーム:自然体で弾く基礎音量の底上げ	4	リズムトレーニング(3):チェンジアップ
5	フォーム:掌から肘までの各筋肉動作把握	5	リズムトレーニング(4):チェンジアップ
6	フォーム:各指の分離、動作配分や置き方、動き方	6	フォーム:ダイナミクスの体感と区分(1)
7	フォーム:技術改善指導(1)	7	フォーム:ダイナミクスの体感と区分(2)
8	フォーム:技術改善指導(2)	8	音符と和音:4和音の自由構築(1)
9	音符と和音:度数と音階(1)	9	音符と和音:楽曲アプローチ増減(2)
10	音符と和音:メジャースケール(2)	10	音符と和音:ダイアトニックコードプラスアルファでの進行作成(3)
11	音符と和音:コードの仕組み(3)	11	音符と和音:譜面の書き方を採譜(4)
12	音符と和音:5度の動き(4)	12	音符と和音:譜面の書き方を採譜(5)
13	音符と和音:7度の追加(5)	13	イヤートレーニングと音作り
14	音符と和音:6度の機能(6)	14	アーティキュレーション(1)個人別演奏スタイル指導
15	音符と和音:代理コード(7)	15	アーティキュレーション(2)個人別演奏スタイル指導
16	イヤートレーニング(1)単音、インターバル区分	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 ヴォーカル、ベース、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス**

授業名	選択副科ギターレッスン	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	ギターを専門外とする学生が、音楽的理解と演奏表現の幅を広げる				
授業概要	コード演奏・リズム感・音作りなど、ギターの基礎から応用までを段階的に学ぶ				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	桑尾 哲郎	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。 バンド「TRASH AUDIO」にてJOIN ALIVE2014に出演。その後、「夢チカレコード」に所属し、ミニアルバム「One Of The Timeless」を全国発売。現在はロックバンド「CPRNX」「hakua.」のギタリストとして活動中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション／ギターの種類と構造の理解	1	リズムトレーニング：休符を意識した演奏
2	ピックの持ち方と基本フォーム	2	簡単なリフ(ロック／ポップス)のコピー
3	チューニングの方法とギターの扱い方	3	ブルース進行(12小節)の基本形を理解
4	左手・右手の基礎運指トレーニング	4	マイナースケールの運指と音のつながり
5	簡単な単音メロディの演奏練習	5	シンプルなリードフレーズの練習
6	オープンコード(C・G・Am・Em)の習得	6	基礎コードとリズム演奏の確認①
7	コードチェンジ練習：スムーズな切り替え	7	基礎コードとリズム演奏の確認②
8	ストロークリズム：8ビートの基本	8	エレキギターの音作り基礎①
9	簡単なコード進行(C→G→Am→F)の演奏	9	エレキギターの音作り基礎②
10	フィンガリングの独立性トレーニング	10	アンプとエフェクターの使い方を学ぶ
11	ストロークリズム：16ビート入門	11	パワーコードによるロックバックイング練習
12	クリーントーンでのアルペジオ演奏	12	ファンクカッティング入門
13	リズム感を養うメトロノーム練習	13	ジャンル別伴奏法①：ポップスのコードワーク
14	オープンコードのバリエーション拡張	14	ジャンル別伴奏法②：ポップスのコードワーク
15	右手のストロークフォーム確認と安定化	15	ジャンル別伴奏法③：ポップスのコードワーク
16	パワーコードの押さえ方と使い方	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ベース専攻 シラバス

授業名	ベースレッスン	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	正確なテンポ感・リズム感を体得する				
授業概要	ベース演奏の基礎から応用、グルーブ形成、録音・ライブ実践までを総合的に学ぶ				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率		
備考	ノートと筆記用具持参				
担当教員	斉藤 彰宏	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科を卒業後、スタジオスタッフとして勤務。バンド活動と並行しアーティストのサポート等ベーシストとしても活動。				

前 期		後 期	
1	ガイダンス／授業方針と年間目標の確認	1	後期ガイダンス／前期復習
2	ベースの構造とメンテナンス、チューニングの基本	2	スライド・ハンマリング・プリング練習
3	正しいフォームとピッキング基礎	3	音価のコントロール(タイトなリズム作り)
4	右手・左手の基本トレーニング	4	シンプルな曲での演奏実践①
5	ルート弾きの基礎(C・G・Fなど主要キー)	5	シンプルな曲での演奏実践②
6	リズムの理解とテンポキープ練習①	6	フィルインとブレイクの基礎
7	リズムの理解とテンポキープ練習②	7	ベースラインの構築法(コード進行理解)
8	8ビートの基本パターン練習①	8	アンサンブル練習(リズム隊の役割)
9	9ビートの基本パターン練習②	9	スケール応用(ブルース・ペンタトニック)①
10	16ビートの基礎とノリの作り方①	10	スケール応用(ブルース・ペンタトニック)②
11	17ビートの基礎とノリの作り方②	11	ファンク・R&Bのベースパターン①
12	スケールの理解(メジャー・マイナー)①	12	ファンク・R&Bのベースパターン②
13	スケールの理解(メジャー・マイナー)②	13	シャッフル・スウィングのリズム練習①
14	アルペジオ基礎と実践練習①	14	シャッフル・スウィングのリズム練習②
15	アルペジオ基礎と実践練習②	15	後期実技チェック
16	グルーブトレーニング(ドラムとの連携)	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ベース専攻 シラバス

授業名	ベースレッスン	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	エレクトリックベース演奏の基礎技術の習得				
授業概要					
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率		
備考	ノートと筆記用具持参				
担当教員	斉藤 彰宏	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科を卒業後、スタジオスタッフとして勤務。 バンド活動と並行しアーティストのサポート等ベーシストとしても活動。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション:バンドにおけるベースの役割と基本的なケア	1	運指トレーニング:各音階別ストレッチ(1)
2	音だしの基礎:アンプの使用方法和音作り(1)	2	運指トレーニング:各音階別ストレッチ(2)
3	音だしの基礎:アンプの使用方法和音作り(2)	3	譜面読みトレーニング:付点音符と付点休符(1)
4	フォーム:弦を押さえる際の基本フォーム(1)	4	譜面読みトレーニング:付点音符と付点休符(2)
5	フォーム:弦を押さえる際の基本フォーム(2)	5	譜面読みトレーニング:初見での演奏レベル(1)
6	フォーム:指弾きとピック弾きの基本フォーム(1)	6	譜面読みトレーニング:初見での演奏レベル(2)
7	フォーム:指弾きとピック弾きの基本フォーム(2)	7	譜面読みトレーニング:初見での演奏レベル(3)
8	フォーム:クロマチックで全指を使うストレッチ(1)	8	運指トレーニング:ハノンポジション違い2種類(1)
9	フォーム:クロマチックで全指を使うストレッチ(2)	9	運指トレーニング:ハノンポジション違い2種類(2)
10	譜面読み:フレットと音名をリンクさせる(1)	10	運指トレーニング:ハノンポジション違い2種類(3)
11	譜面読み:フレットと音名をリンクさせる(2)	11	運指トレーニング:チェンジアップと運指の組み合わせ(1)
12	譜面読みトレーニング:全音符~16分音符(1)	12	運指トレーニング:チェンジアップと運指の組み合わせ(2)
13	譜面読みトレーニング:全音符~16分音符(2)	13	運指トレーニング:チェンジアップと運指の組み合わせ(3)
14	運指トレーニング:ハノンex-1を指とピックで(1)	14	運指トレーニング:アクセントと強調(1)
15	運指トレーニング:ハノンex-1を指とピックで(2)	15	運指トレーニング:アクセントと強調(2)
16	運指トレーニング:ハノンex-1を指とピックで(3)	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 ヴォーカル、ギター、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス**

授業名	選択副科ベースレッスン	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	演奏や作曲に必要な技術と知識の習得				
授業概要	楽器の構え方から始め、基礎トレーニングや楽曲演奏などを行う				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	斉藤 彰宏	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科を卒業後、スタジオスタッフとして勤務。バンド活動と並行しアーティストのサポート等ベーシストとしても活動。				

前 期		後 期	
1	授業ガイダンス	1	ギター、ドラム、ベースでセッション
2	ベースの構え方について	2	①指弾きのフォーム確認
3	右手と左手のフォームについて	3	②指弾きのフォーム確認
4	①基礎運指とリズムトレーニング	4	①ピック弾きのフォーム確認
5	②基礎運指とリズムトレーニング	5	②ピック弾きのフォーム確認
6	③基礎運指とリズムトレーニング	6	①スラップ奏法の習得
7	④基礎運指とリズムトレーニング	7	②スラップ奏法の習得
8	⑤基礎運指とリズムトレーニング	8	③スラップ奏法の習得
9	スケールについて メジャースケールと運指	9	①課題曲演奏 8ビートの楽曲
10	スケールについて マイナースケールと運指	10	②課題曲演奏 8ビートの楽曲
11	スケールについて メジャーペンタトニックスケールと運指	11	④課題曲演奏 16ビートの楽曲
12	スケールについて マイナーペンタトニックスケールと運指	12	⑤課題曲演奏 16ビートの楽曲
13	①ブルースを使ったベースラインの作成	13	他の楽器とのセッションの準備
14	②ブルースを使ったベースラインの作成	14	ドラムとのセッション
15	他の楽器とのセッションの準備	15	ギター、ドラム、ベースでセッション
16	ドラムとのセッション	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ドラム専攻 シラバス

授業名	ドラムレッスン	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	ドラム演奏の基礎技術を確立、ジャンルごとのリズム・グルーブを理解する				
授業概要	ドラムの基礎から応用、アンサンブル、ライブパフォーマンスまでを体系的に学ぶ実技中心の授業				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率		
備考	スティック持参、必要に応じ譜面を配布				
担当教員	大山 淳	実務経験	○		
実務内容	数多くのミュージシャンやシンガーと共演、コンサートやレコーディングに関わる。PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)では札幌交響楽団とも共演。伝説的ブラスロックバンド「Soul Power」のサポート・ドラマーとしても活動中。				

前 期		後 期	
1	ガイダンス／授業方針・年間目標の確認	1	後期ガイダンス／前期復習
2	ドラムセット各部の名称とセッティング法	2	フィルイン応用(長いフィルと展開)
3	正しいスティックの持ち方とフォーム	3	3連符・シャッフルリズムの練習①
4	基本ストローク(フル・タップ・アップ・ダウン)	4	3連符・シャッフルリズムの練習②
5	8ビートの基礎パターン練習	5	スウィング／ジャズの基礎パターン①
6	ハイハットのリズムとアクセント練習	6	スウィング／ジャズの基礎パターン②
7	バスドラムのコントロール練習	7	ラテン・ファンク・R&Bのリズム導入①
8	フィルイン(短いドラムソロ)基礎	8	ラテン・ファンク・R&Bのリズム導入②
9	16ビートのパターン練習	9	テンポ変化に対応する演奏法
10	スネアのゴーストノート練習	10	曲構成理解(イントロ～アウトロ)①
11	リズムチェンジとテンポキープ練習	11	曲構成理解(イントロ～アウトロ)②
12	シンコペーション(リズムのずらし方)	12	楽譜リーディング(リズム譜の読み方)①
13	グルーブ感の作り方(リズムの“ノリ”)	13	楽譜リーディング(リズム譜の読み方)②
14	簡単な曲での演奏実践①	14	スティックコントロール強化トレーニング
15	簡単な曲での演奏実践②	15	ダイナミクスと表現力の強化
16	簡単な曲での演奏実践③	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 ドラム専攻 シラバス

授業名	ドラムレッスン	学年	1年	単位数	4単位
授業目的	ドラム演奏上の技術の確認と習得				
授業概要					
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率		
備考	スティック持参、必要に応じ譜面を配布				
担当教員	大山 淳	実務経験	○		
実務内容	数多くのミュージシャンやシンガーと共演、コンサートやレコーディングに関わる。PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)では札幌交響楽団とも共演。伝説的ブラスロックバンド「Soul Power」のサポート・ドラマーとしても活動中。				

前 期		後 期	
1	グリップとフォーム: ジャーマン、フレンチ、アメリカン、レディポジション	1	Funk(16beat)
2	基本ストローク(ショット/リバウンドの習得)	2	ストローク(シングル&ダブル)
3	モーラー的ストローク(ウィップモーション)	3	アクセント&チェンジアップ
4	フォーム: 指-手首-肘-肩の連動	4	ルーディメンツの導入
5	シングル、ダブルストローク(1つ、2つ打ち)	5	ダブルストローク・パラディドル・フラム・ドラッグ(1)
6	アクセントとレベルコントロール	6	ダブルストローク・パラディドル・フラム・ドラッグ(2)
7	チェンジアップとルーディメンツの導入	7	スネアソロ曲の導入(1)
8	フォームとセッティング	8	スネアソロ曲の導入(2)
9	ヒールアップ奏法の確認	9	シングルペダル-ダブルキック
10	足リードの読譜(シンコペーションブック)	10	ツインペダル-連打/コンビネーション
11	ツインペダルの基本	11	左足ゴースト-4way(四肢の独立)
12	アクセントを発展させたコーディネーション	12	手足のコンビネーション
13	左足のゴーストモーション	13	リニアフレーズの導入
14	4WAY(四肢の独立)	14	Rock/Funk/シャッフル(1)
15	ROCK(8beat)	15	Rock/Funk/シャッフル(2)
16	シャッフル(Bounce)	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

**2026年度 ヴォーカル、ベース、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス**

授業名	選択副科ドラムレッスン	学年	1年	単位数	2単位
授業目的	リズム感・グルーヴ感・テンポキープ力を身につける				
授業概要	ドラムの基本フォーム、スティッキング、リズムパターン、フィルインなどの基礎を学び				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	西村 一晟	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。 JOIN ALIVEに出演等、ドラマーとして数多くのライブやレコーディングに参加。島村楽器のドラム講師としても活動中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション／ドラムセットの名称と役割を理解	1	ポップス系リズムの安定化①
2	スティックの持ち方と基本フォームの確認	2	ポップス系リズムの安定化②
3	ストローク基礎①:フルストロークとタップストローク	3	ロック系ドラムパターン練習①
4	ストローク基礎②:ダウンストロークとアップストローク	4	ロック系ドラムパターン練習②
5	シングルストロークとダブルストロークの練習	5	ブルース／R&B系のグルーヴ理解①
6	メトロノームを使ったテンポキープ練習(4分音符)	6	ブルース／R&B系のグルーヴ理解②
7	基本リズム:8ビートのバリエーション①	7	リズムキープ力を養うトレーニング(クリック応用)①
8	基本リズム:8ビートのバリエーション②	8	リズムキープ力を養うトレーニング(クリック応用)②
9	基本リズム:16ビートのバリエーション①	9	リズムキープ力を養うトレーニング(クリック応用)③
10	基本リズム:16ビートのバリエーション②	10	テンポチェンジへの対応練習
11	バスドラムとスネアのコンビネーション練習	11	フィルインからリズムに戻る練習①
12	ハイハットのオープン／クローズ奏法	12	フィルインからリズムに戻る練習②
13	フィルイン基礎:シンプルな2小節フィル	13	フィルインからリズムに戻る練習③
14	フィルイン基礎:タムを使った展開練習	14	基礎リズムと安定したタイム感の確認
15	ドラムの音量・強弱(ダイナミクス)表現	15	基本リズムの確認練習、実技チェック
16	4分・8分・16分のタイム感を統合する練習、実技チェック	16	

※自学自習を促すため、課題、レポート、宿題等を随時課します。提出状況は単位認定の参考とします。

2026年度 PA&レコーディングエンジニア専攻 シラバス					
授業名	PA実習3	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	音響・PAシステムの知識・技術を発展的に習得する				
授業概要	主にデジタルコンソールを使用し、楽器の生演奏のミキシング及びライブ収録についても習得する				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	動きやすい服装、メモをとる、返事を必ず。				
担当教員	平井 隆寛	実務経験	○		
実務内容	PAエンジニア、オペレーターとしてメジャー・インディーズ問わず数多くのアーティストの現場を担当。現在では音楽制作チームSound Raveにコンポーザーとして所属。オリジナル作品を多く発表するほか、CM音楽、アイドルソング、BGM、ソロシンガー等へ幅広い楽曲を提供、発表している。				

前 期		後 期	
1	デジタルコンソール概要	1	マトリクスアウトセットアップ
2	ネットワークオーディオ (Dante、MADI等のネットワークオーディオ)	2	FXパッチ
3	デジタルコンソールの初期設定	3	ディレイの実際応用
4	マトリクスアウト	4	リバーブのミックス
5	エフェクターパッチ	5	オフラインエディット(オフラインでの卓データエディット)
6	グラフィックインサートパッチ	6	オフラインエディット(実機での卓データエディット)
7	イコライザー (グラフィックイコライザー、パラメトリックイコライザー)	7	バーチャルサウンドチェック(ドラムのサウンドチェック)
8	ディレイ(ディレイのパラメーターと調整)	8	バーチャルサウンドチェック(ベースのサウンドチェック)
9	リバーブ(リバーブのタイプとパラメーターの調整)	9	バーチャルサウンドチェック(ギターのサウンドチェック)
10	コンプレッサー (コンプレッサー、ノイズゲートのパラメーターと調整)	10	イコライザー(パラメトリックイコライザー)
11	ライブ収録概要	11	コンプレッサー
12	アナログ分岐(回線のアナログ分岐)	12	DCA(DCAセットアップとミックス)
13	ネットワーク分岐(回線のネットワーク分岐)	13	カスタムフェーダーを組む
14	オーディエンスマイク	14	スピーカーの抵抗値とパラレル接続
15	回線チェック (FOH、モニター、録音、三者間での回線チェック)	15	PAシステムと電源
16	サウンドチェック (バーチャルサウンドを使用したFOH、モニター、録音、三者によるチェック)	16	アウトチェック システムプランの構築
17	ミックス及び収録 (バーチャルサウンドを使用したFOH、モニター、録音、三者によるミックス及び収録)		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 PA&レコーディングエンジニア、PA&照明専攻 シラバス			
授業名	PA実習2	学年	2年
		単位数	4単位
授業目的	音響・PAシステムの知識・技術を発展的に習得する		
授業概要	主にデジタルコンソールを使用し、楽器の生演奏のミキシング及びライブ収録についても習得する		
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率
備考	動きやすい服装、メモをとる、返事を必ず。		
担当教員	岡本 崇樹	実務経験	○
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科卒業後、音響会社やWEB制作会社に勤めたのち、会社を設立。音響オペレート・レコーディング業務を始めアーティストプロモーションやイベントライブ企画・映像音楽制作・WEB制作・建築などクリエイティブな分野で活躍中。		

前 期		後 期	
1	デジタルコンソール概要	1	マトリックスアウトセットアップ
2	ネットワークオーディオ (Dante、MADI等のネットワークオーディオ)	2	FXパッチ
3	デジタルコンソールの初期設定	3	ディレイの実際応用
4	マトリックスアウト	4	リバーブのミックス
5	エフェクターパッチ	5	オフラインエディット(オフラインでの卓データエディット)
6	グラフィックインサートパッチ	6	オフラインエディット(実機での卓データエディット)
7	イコライザー (グラフィックイコライザー、パラメトリックイコライザー)	7	バーチャルサウンドチェック(ドラムのサウンドチェック)
8	ディレイ(ディレイのパラメーターと調整)	8	バーチャルサウンドチェック(ベースのサウンドチェック)
9	リバーブ(リバーブのタイプとパラメーターの調整)	9	バーチャルサウンドチェック(ギターのサウンドチェック)
10	コンプレッサー (コンプレッサー、ノイズゲートのパラメーターと調整)	10	イコライザー(パラメトリックイコライザー)
11	ライブ収録概要	11	コンプレッサー
12	アナログ分岐(回線のアナログ分岐)	12	DCA(DCAセットアップとミックス)
13	ネットワーク分岐(回線のネットワーク分岐)	13	カスタムフェーダーを組む
14	オーディエンスマイク	14	スピーカーの抵抗値とパラレル接続
15	回線チェック (FOH、モニター、録音、三者間での回線チェック)	15	PAシステムと電源
16	サウンドチェック (バーチャルサウンドを使用したFOF、モニター、録音、三者によるチェック)	16	アウトチェック システムプランの構築
17	ミックス及び収録 (バーチャルサウンドを使用したFOF、モニター、録音、三者によるミックス及び収録)		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 PA&レコーディングエンジニア専攻 シラバス					
授業名	ライブPA実習	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	音楽ライブ及びイベントにおける舞台照明、舞台セット、特殊効果をライブ形式で実践的に学ぶ				
授業概要	実際のイベント現場で行われるライブを想定し、実践力を身につける セクションの連携をとりつつ、一つ一つのオペレーションを詰めていく イレギュラー・複雑化する演目に対し、準備をしっかりと行う				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	動きやすい服装、メモをとる、返事を必ず。				
担当教員	岡本 崇樹	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科卒業後、音響会社やWEB制作会社に勤めたのち、会社を設立。 音響オペレート・レコーディング業務を始めアーティストプロモーションやイベントライブ企画・映像音楽制作・WEB制作・建築 などクリエイティブな分野で活躍中。				

前 期		後 期	
1	ライブ実習の進め方(ワークフローの確立、実践)	1	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
2	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	2	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの4セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
3	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	3	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの5セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
4	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	4	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの6セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
5	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	5	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの7セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
6	新入生歓迎ライブ前 ライブ実習	6	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの8セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
7	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	7	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの9セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
8	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	8	2年生卒業ライブ前 ライブ実習
9	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	9	2年生卒業ライブ
10	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	10	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの12セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
11	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	11	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの13セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
12	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	12	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの14セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
13	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	13	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの15セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
14	2年生定期ライブ前 ライブ実習	14	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの16セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
15	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	15	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの17セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
16	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り	16	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの18セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り
17	「在校生出演者」に対応した照明プラン/PAは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 PA&レコーディングエンジニア専攻 シラバス					
授業名	レコーディング実習2	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	実際のバンドレコーディング作業を通じて、より実践的なスタジオワークを学ぶ				
授業概要	実際のバンドレコーディング作業を通じて、より実践的なスタジオワークを学ぶ				
教科書	サウンドレコーディング技術概論	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	動きやすい服装、メモをとる、返事を必ず。				
担当教員	竹内 貴彦	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業後、ラジオディレクターとして勤務。退社後、バンド活動と共にフリーランス音響エンジニアとして活動。現在、PA&レコーディングエンジニアとして様々なアーティストの現場で活躍中。				

前 期		後 期	
1	ドラムのマイクアレンジ	1	ボーカル録音(ボーカルマイク、CUE BOX、譜面台スタンバイ)
2	ドラムのミキシング	2	オケ取り込み(CD、データ、携帯プレーヤー等からの音源取り込み)
3	ドラムの録音	3	モニターバランス(モニターバランス、リバーブバランスチェック)
4	ドラムのミックスバランス	4	ボーカルマイク(レベル、コンプインサート管理)
5	ベースの録音セッティング	5	歌詞カード、譜面へのロケート書込み
6	ベースの録音	6	ボーカル録音(ボーカル録音のパンチインアウト)
7	エレキギターの録音セッティング	7	アコースティックギター録音(アコースティックギター録音のマイクアレンジ、DIのスタンバイ)
8	エレキギターの録音	8	エレキギター(エレキギターのマイクアレンジ)
9	アコースティックギターの録音セッティング	9	ベースの録音(ベースのマイクアレンジ、DIのスタンバイ)
10	キーボードの録音セッティング	10	キーボードの録音(キーボードのDIのスタンバイ)
11	キーボードの録音	11	Pro Tools(プレイリスト管理)
12	モニターミックス(モニターバランスの調整)	12	Pro Tools(マーカー管理とロケート)
13	バンド録音のマイクアレンジ	13	Pro Tools(パンチインアウトとつながりのエディット)
14	バンド録音の楽器配置	14	コーラス録音(コーラスダビング)
15	バンド編成の同時録音	15	タイミングエディット
16	各パートのオーバーダブ	16	ピッチエディット マスターバウンス
17	ボーカルのオーバーダブ		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 PA&レコーディングエンジニア専攻 シラバス					
授業名	Pro Tools 2	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	ProToolsの様々な使用法を、スタジオ録音及びライブ録音の素材を用いたミックス作業から習得する				
授業概要	ProToolsの様々な使用法を、スタジオ録音及びライブ録音の素材を用いたミックス作業から習得する				
教科書	Pro Tools 12 徹底操作ガイド	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	ヘッドフォンを各自持参				
担当教員	竹内 貴彦	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業後、ラジオディレクターとして勤務。退社後、バンド活動と共にフリーランス音響エンジニアとして活動。現在、PA&レコーディングエンジニアとして様々なアーティストの現場で活躍中。				

前 期		後 期	
1	サブミックス	1	オーディオインポート
2	VCAグループ	2	セッションデータインポート
3	chグループ	3	MIDIデータインポート
4	フェーダーオートメーション	4	エラスティックオーディオ分析と同期
5	リバーブ(リバーブのタイプとパラメーター)	5	テンポ変更
6	リバーブ(リバーブのタイプとパラメーター)	6	エラスティックプロパティ
7	ディレイ(ディレイのパラメータと調整)	7	フェーダーオートメーション
8	イコライザー(パラメトリックイコライザー)	8	VCAマスター
9	コンプレッサー(コンプレッサーの調整)	9	TCEIによるテンポ同期
10	ドラムのミックス	10	プレイリストからのテイク決め
11	ベースの音決め	11	プラグイン
12	エレキギターの音決め	12	AAXとAUDIOSUITE
13	ボーカルトリートメント	13	バックアップコピー
14	エラスティック	14	トラックのトリートメント
15	エラスティックプロパティ	15	PTバージョンの変更
16	ライブネス(ライブネスとは)	16	マスターリング(WAVE LABIによるマスターリング) DDP書き出し
17	ライブミックス(ライブ音源のミックス)		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 PA&レコーディングエンジニア、PA&照明専攻 シラバス				
授業名	イベント企画運営実務2	学年	2年	単位数 4単位
授業目的	1年間スタッフ学習をしてきた学生に、今一度「音楽」に立ち返りさまざまな楽曲を知り、その成り立ちやその構造の基礎を知る			
授業概要				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率	
備考				
担当教員	岡本 崇樹	実務経験	○	
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科卒業後、音響会社やWEB制作会社に勤めたのち、会社を設立。 音響オペレート・レコーディング業務を始めアーティストプロモーションやイベントライブ企画・映像音楽制作・WEB制作・建築などクリエイティブな分野で活躍中。			

前 期		後 期	
1	オリエンテーション・定期ライブ企画概要(授業の目的と年間スケジュールの確認)	1	特別セミナーライブおよび卒業ライブの準備活動
2	企画立案とコンセプト設計	2	卒業ライブ企画立ち上げ(コンセプト設計)
3	制作スケジュールと予算計画(タイムテーブルの作成)	3	卒業ライブ準備の進行(制作スケジュールの策定)
4	設営計画と技術要件(照明・音響プランの立案)	4	卒業ライブ準備の進行(各セクションとの調整作業)
5	プロモーション戦略(宣伝素材の制作)	5	卒業ライブ準備の進行(各種準備作業の進捗管理)
6	リハーサル計画と進行管理(リハーサルスケジュールの作成、技術チェックリストの確認)	6	特別セミナー企画の制作設計
7	最終準備とリスクマネジメント(最終チェックと調整)	7	各セクションの準備状況確認
8	定期ライブ実施と振り返り(改善点の抽出と記録)	8	特別セミナーの技術要件の確認と最終調整
9	特別セミナーライブ企画立ち上げ&企画詳細の具体化	9	特別セミナーライブ(後期開催分)の実施・振り返り
10	特別セミナー企画の制作設計	10	卒業ライブ最終準備(イベント演出確認等)
11	各セクションの準備状況確認	11	卒業ライブ実施と総括(本番運営と終了後の振り返り)
12	特別な技術要件の確認	12	年間活動の振り返り①(成功要因と課題の抽出)
13	特別セミナー最終調整とリハーサル	13	年間活動の振り返り②(個人の成長とスキル習得の確認)
14	特別セミナーライブ実施と評価	14	イベント開催に必要なスキルの体系化(企画力、調整力、実行力の総合評価)
15	秋 Fesライブ企画立案	15	業界で求められる人材像(キャリア形成のためのスキル開発)
16	基本的な制作スケジュールの作成	16	最終総括(今後の課題設定と目標設定)
17	前期活動の総括		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 PA&レコーディングエンジニア、PA&照明専攻 シラバス					
授業名	楽器基礎実習	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	楽器の演奏法を学びつつ、楽曲の演奏を出来るようにし、スタッフワークに活かす				
授業概要	楽器の演奏法を学び、楽曲の演奏を行う。				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、理解度、出席率		
備考	メモをとる、返事を必ず。必要に応じ譜面を配布				
担当教員	斉藤 彰宏	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科を卒業後、スタジオスタッフとして勤務。バンド活動と並行しアーティストのサポート等ベーシストとしても活動。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション 授業内容と目的、注意事項	1	前期までの内容を踏まえ各パートの選定
2	ギターの仕組みと、演奏法について学ぶ	2	課題曲の採譜 シンプルな構成の楽曲
3	ギターの演奏法を学び、実際に練習 ギター練習①	3	採譜した譜面を元に各パートの練習①
4	ギターの演奏法を学び、実際に練習 ギター練習②	4	採譜した譜面を元に各パートの練習②
5	ギターの演奏法を学び、実際に練習 ギター練習③	5	採譜した譜面を元に各パートの練習③
6	ベースの仕組みと演奏法について学ぶ	6	アンサンブル①
7	ベースの演奏法を学び、実際に練習 ベース練習①	7	アンサンブル②
8	ベースの演奏法を学び、実際に練習 ベース練習②	8	アンサンブル③
9	ベースの演奏法を学び、実際に練習 ベース練習③	9	課題曲の採譜 J-popの楽曲
10	ドラムの仕組みと演奏法について学ぶ	10	採譜した譜面を元に各パートの練習①
11	ドラムの演奏法を学び、実際に練習 ドラム練習①	11	採譜した譜面を元に各パートの練習②
12	ドラムの演奏法を学び、実際に練習 ドラム練習②	12	採譜した譜面を元に各パートの練習③
13	ドラムの演奏法を学び、実際に練習 ドラム練習③	13	アンサンブル①
14	キーボードの仕組みと演奏法について学ぶ	14	アンサンブル②
15	キーボードの演奏法を学び、実際に練習 キーボード練習①	15	アンサンブル③
16	キーボードの演奏法を学び、実際に練習 キーボード練習②	16	まとめ、1年間の楽曲演奏
17	キーボードの演奏法を学び、実際に練習 キーボード練習③	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 PA&照明専攻 シラバス					
授業名	照明実習2	学年	2年	単位数	8単位
授業目的	音楽ライブや各種イベントにおいて、照明及び舞台スタッフとして必要とされる、知識と技術の修得				
授業概要	定期ライブとライブ実習に向けた照明プランニング、データ作成、舞台進行。また、舞台スタッフとしてのスキルや知識を身につける				
教科書	なし	成績評価	出席率・授業態度・実習における理解度		
備考	スニーカー、黒い服装、メモその他				
担当教員	鳴海 保	実務経験	○		
実務内容	1985年から北海道及び全国での舞台照明・イベント制作・舞台制作のスタッフとして従事。美空ひばり(北海道ツアー)、松山千春(全国ツアー・北方圏フェスティバル)、中森明菜、本田美奈子、柏原芳恵、南こうせつ、堀内孝雄、尾崎豊、加藤登紀子、中島みゆき、浜田省吾、山下達郎、ラウドネス、THE ALFEE、HOUND DOG、レベッカ、など多数のアーティストを担当し、その後、フリーの照明家を経て現在に至る。				

前 期		後 期	
1	舞台照明仕込み直し及び機材メンテナンス	1	学園祭ライブ 照明仕込み
2	ライブ実習データ作成	2	学園祭ライブ 照明データ作成
3	新入生歓迎ライブ 照明計画	3	学園祭ライブ 本番・撤収
4	新入生歓迎ライブ 照明仕込み	4	舞台照明復帰
5	新入生歓迎ライブ 照明データ作成	5	特別セミナーイベント 照明計画
6	新入生歓迎ライブ 本番・撤収	6	特別セミナーイベント 照明・仕込み
7	新入生歓迎ライブ 撤収・復帰	7	特別セミナーイベント 照明データ作成
8	舞台照明復帰	8	特別セミナーイベント 本番・撤収
9	ライブ実習データ作成	9	卒業ライブ 照明・舞台特殊効果計画①
10	ライブ実習データ作成	10	卒業ライブ 照明・舞台特殊効果計画②
11	ライブ実習データ作成	11	卒業ライブ 照明・舞台仕込み
12	特別セミナーイベント 照明計画	12	卒業ライブ 照明データ作成
13	特別セミナーイベント 照明・仕込み	13	卒業ライブ 本番・撤収
14	特別セミナーイベント 照明データ作成	14	舞台照明復帰
15	特別セミナーイベント 本番・撤収	15	ライブ実習データ作成
16	舞台照明復帰	16	授業振り返り・総括、自己チェック
17	学園祭ライブ 照明計画		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 PA&照明専攻 シラバス					
授業名	照明実習3	学年	2年	単位数	8単位
授業目的	音楽ライブや各種イベントにおいて、照明及び舞台スタッフとして必要とされる、知識と技術の修得				
授業概要	定期ライブとライブ実習に向けた照明プランニング、データ作成、舞台進行。また、舞台スタッフとしてのスキルや知識を身につける				
教科書	なし	成績評価	出席率・授業態度・実習における理解度		
備考	スニーカー、黒い服装、メモその他				
担当教員	鳴海 保	実務経験	○		
実務内容	1985年から北海道及び全国での舞台照明・イベント制作・舞台制作のスタッフとして従事。美空ひばり(北海道ツアー)、松山千春(全国ツアー・北方圏フェスティバル)、中森明菜、本田美奈子、柏原芳恵、南こうせつ、堀内孝雄、尾崎豊、加藤登紀子、中島みゆき、浜田省吾、山下達郎、ラウドネス、THE ALFEE、HOUND DOG、レベッカ、など多数のアーティストを担当し、その後、フリーの照明家を経て現在に至る。				

前 期		後 期	
1	ライブ実習データ作成	1	ライブ実習データ作成
2	ライブ実習データ作成	2	ライブ実習データ作成
3	ライブ実習データ作成	3	ライブ実習データ作成
4	新入生歓迎ライブの照明データ作成	4	特別セミナー11月開催 本番
5	新入生歓迎ライブの照明データ作成	5	ライブ実習データ作成
6	新入生歓迎ライブ 撤収・復帰 ライブ実習データ作成	6	ライブ実習データ作成
7	配線図・回路図基礎実習①	7	ライブ実習データ作成
8	配線図・回路図基礎実習②	8	ライブ実習データ作成
9	配線図・回路図基礎実習③	9	ライブ実習データ作成
10	配線図・回路図基礎実習④	10	2年卒業ライブ 12月開催 本番
11	特別セミナー 照明仕込み	11	撤収・復帰作業
12	特別セミナー 照明データ作成	12	ライブ実習データ作成
13	特別セミナー7月開催 本番	13	配線図・回路図基礎実習⑤
14	撤収・復帰作業	14	配線図・回路図基礎実習⑥
15	機材メンテナンス	15	配線図・回路図基礎実習⑦
16	機材メンテナンス	16	実習授業振り返り・総括
17	機材メンテナンス		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 PA&照明専攻 シラバス					
授業名	ライブ照明実習	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	音楽ライブ及びイベントにおける舞台照明、舞台セット、特殊効果をライブ形式で実践的に学ぶ				
授業概要	実際のイベント現場で行われるライブを想定し、実践力を身につける セクションの連携をとりつつ、一つ一つのオペレーションを詰めていく イレギュラー・複雑化する演目に対し、準備をしっかりと行う				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	動きやすい服装、メモをとる、返事を必ず。				
担当教員	鳴海 保	実務経験	○		
実務内容	1985年から北海道及び全国での舞台照明・イベント制作・舞台制作のスタッフとして従事。美空ひばり(北海道ツアー)、松山千春(全国ツアー・北方圏フェスティバル)、中森明菜、本田美奈子、柏原芳恵、南こうせつ、堀内孝雄、尾崎豊、加藤登紀子、中島みゆき、浜田省吾、山下達郎、ラウドネス、THE ALFEE、HOUND DOG、レベッカ、など多数のアーティストを担当し、その後、フリーの照明家を経て現在に至る。				

前 期		後 期	
1	ライブ実習の進め方(ワークフローの確立、実践)	1	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
2	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	2	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの4セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
3	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	3	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの5セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
4	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	4	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの6セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
5	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	5	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの7セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
6	新入生歓迎ライブ前 ライブ実習	6	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの8セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
7	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	7	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの9セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
8	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	8	2年生卒業ライブ前 ライブ実習
9	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	9	2年生卒業ライブ
10	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	10	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの12セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
11	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	11	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの13セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
12	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	12	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの14セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
13	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	13	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの15セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
14	特別セミナー前 ライブ実習	14	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの16セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
15	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	15	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの17セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
16	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)	16	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの18セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)
17	「在校生出演者」に対応した照明プランは(ハウス・モニター・ステージの3セクションに分かれ、それぞれの作業の流れを身に付ける。舞台監督は持ち回り)		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 PA&照明、総合音楽専攻 シラバス				
授業名	映像編集	学年	2年	単位数 4単位
授業目的	[通年] 動画編集			
授業概要	[前期] 1. Premire基本操作 [前期] 2. Premire応用技術 [前期] 3. 絵コンテ制作基礎 [前期] 4. 課題制作① [後期] 1. AEの基本操作 [後期] 2. 課題制作② [後期] 3. 課題制作③ [後期] 4. 進級課題制作			
教科書		成績評価	●課題提出データのクオリティ ●授業態度・出席率	
備考				
担当教員	神林 慎治	実務経験	○	
実務内容	3DCGデザイナー、アニメーションコンポジッター、映像ディレクター、専門学校教員			

前 期		後 期	
1	Premire基本操作	1	AEの基本操作
2	Premire基本操作	2	AEの基本操作
3	Premire基本操作	3	AEの基本操作
4	Premire基本操作	4	AEの基本操作
5	Premire応用技術（動画フォーマット概要）	5	課題制作②
6	Premire応用技術（グレーディング概要①）	6	課題制作②
7	Premire応用技術（グレーディング概要②）	7	課題制作②
8	Premire応用技術（youtube動画概要）	8	課題制作②
9	Premire応用技術（動画配信技術概要）	9	課題制作③
10	Premire応用技術（音響活用概要）	10	課題制作③
11	Premire応用技術（トランジションとテロップ概要）	11	課題制作③
12	絵コンテ制作の基本（絵コンテテンプレートの作成）	12	課題制作③
13	絵コンテ制作の基本（絵コンテの書き方）	13	課題制作③
14	課題制作①（Live編集）	14	課題制作③
15	課題制作①（Live編集）	15	進級制作
16	課題制作①（Live編集）	16	進級制作
17	課題制作①（Live編集）		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 全専攻 シラバス					
授業名	キャリア開発演習	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	学校よりの情報伝達、社会に出るための準備				
授業概要	伝達事項と業界の研究、就職やデビュー対策を中心に展開				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	筆記用具持参				
担当教員	小松 哲太郎	実務経験			
実務内容	専門学校札幌ビジュアルアーツの就職サポート部署であるキャリアセンターにて、学生指導を担当				

前 期		後 期	
1	新年度キャリアセンター担当者紹介・就活ルール説明、求人票紹介、進路希望アンケート記入、伝達事項、業界研究、など。	1	伝達事項、及びインターンシップについて
2	伝達事項、働きたい=受験してみたい企業を調べてリスト化し、提出。	2	求人紹介、求職カード記入、面接時良く出る質問に対する回答検討、同時にキャリアセンター担当者と面談。
3	求人紹介、求職カード記入の続き、各々の就職活動に同時にキャリアセンター担当者と面談。	3	求人紹介、求職カード記入の続き、各々の就職活動に同時にキャリアセンター担当者と面談①
4	求人紹介、求職カード記入の続き、各々の就職活動に同時にキャリアセンター担当者と面談。	4	求人紹介、求職カード記入の続き、各々の就職活動に同時にキャリアセンター担当者と面談②
5	ミュージシャン系 学外活動のしかた	5	求人紹介、求職カード記入の続き、各々の就職活動に同時にキャリアセンター担当者と面談③
6	伝達事項、就職、オーディション対策 履歴書、プロフィールの記入の仕方と添削①	6	求人紹介、 デビュー対策/札幌市内ライブハウスの紹介
7	伝達事項、オーディション就職対策 履歴書のプロフィール記入の仕方と添削②	7	求人紹介、 デビュー対策/アーティストによる企画ライブについて ①
8	校内企業説明会 伝達事項、など	8	求人紹介、 デビュー対策/アーティストによる企画ライブについて ②
9	伝達事項、就職対策 就活に備え、履歴書の説明、学外活動のしかた	9	求人紹介、 デビュー対策/オーディションに向く楽曲とは①
10	伝達事項、就職対策 面接練習①	10	求人紹介、 デビュー対策/オーディションに向く楽曲とは②
11	伝達事項、就職対策 面接練習②	11	卒業後をイメージしてみよう 就職後チャレンジしてみたいことなど
12	伝達事項、就職対策 面接練習③	12	人前で話をしてみよう テーマを決めて伝えるように話す①
13	施設見学 ステージ、照明ルーム、PALルーム などを見学	13	人前で話をしてみよう テーマを決めて伝えるように話す②
14	校内企業説明会 伝達事項、など	14	人前で話をしてみよう テーマを決めて伝えるように話す③
15	伝達事項、求人紹介、就職個別面談①	15	2年間を振り返り感想を書く
16	伝達事項、求人紹介、就職個別面談②	16	2年間まとめ
17	伝達事項、求人紹介予備週		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ミュージッククリエイター専攻 シラバス				
授業名	商業音楽制作	学年	2年	単位数 4単位
授業目的	映像と映像音楽の理解を深め、イベントやライブの音楽などより幅広い知識や応用力をつける			
授業概要	実際にプロジェクト企画を立ち上げ映像音楽や広告を考える			
教科書	なし	成績評価	試験実施・その他(制作物の提出、クオリティ、出席率等)	
備考				
担当教員	佐々木 恒平 (AND)	実務経験	○	
実務内容	2006年より作曲活動。近年の主な業務内容は、国内外の企業TVCM、Webなどの広告音楽やサウンドロゴなどの作曲、サウンドディレクションを担当。またプライダルや、ヘアショーやメイクアップショー、アート作家の個展や、サインージなどに幅広く楽曲提供や、サウンドディレクションを担当。			

前 期		後 期	
1	オリエンテーション: 授業の内容説明	1	応用楽曲研究(1)
2	音楽業界で必須な能力である『思考の言語化』	2	サウンド企画制作応用実習(1)
3	広告音楽とは何か、また、どのようなスキルが必要か。	3	実践ライブ企画実習(1)
4	メロディーの作り方やアレンジの仕組みを理解してもらう。	4	実践ライブ企画実習(2)
5	自分の考えを文章化、発表する。(1)	5	応用楽曲研究(2)
6	ツアーがどのような流れで業界が動いているかを学ぶ。	6	サウンド企画制作応用実習(2)
7	ツアーについて学習する。	7	プレゼンテーション・文章表現(1)
8	サウンドロゴ制作(1)	8	サウンド企画制作応用実習(3)
9	自分の考えを文章化、発表する。(2)	9	プレゼンテーション・文章表現(2)
10	楽曲制作研究(1)	10	サウンド企画制作応用実習(4)
11	サウンドロゴ制作(2)	11	応用楽曲研究(3)
12	楽曲制作研究(2)	12	サウンド企画制作応用実習(5)
13	サウンドロゴ制作(3)	13	応用楽曲研究(4)
14	ライブ計画制作実習	14	応用楽曲研究(5)
15	楽曲制作研究(3)	15	サウンド企画制作応用実習(6)
16	サウンドロゴ制作(4)	16	制作楽曲プレゼンテーション
17	サウンドロゴ制作(5)	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ミュージッククリエイター専攻 シラバス					
授業名	ミックスダウン	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	シーケンスアプリケーションでの楽曲トラックのミックスに特化した授業				
授業概要	STUDIO ONEおよびPLUG-INを使用し知識の習得と実習				
教科書		成績評価	課題、出席、取り組み		
備考					
担当教員	平井 隆寛	実務経験	○		
実務内容	PAエンジニア、オペレーターとしてメジャー・インディーズ問わず数多くのアーティストの現場を担当。現在は音楽制作チーム Sound Ravelにコンポーザーとして所属。オリジナル作品を多く発表するほか、CM音楽、アイドルソング、BGM、ソロシンガー等へ幅広い楽曲を提供、発表している。				

前 期		後 期	
1	DAW、DTMをなぜ学ぶのか	1	サンプラー①Sample Oneの使用についてサンプラーの機材を知る
2	DAWソフトウェアの基本操作 I/F、オーディオ、ソングの新規作成について	2	サンプラー①Sample Oneで制作した音源や波形を使い楽曲に使用してみる
3	DAWソフトウェアの基本操作 ピアノロールの操作	3	Inpactにドラムサンプルをインポートし、オリジナルのドラムキットを作成
4	DAWソフトウェアの基本操作 インストゥルメントの読み込み	4	Inpactに作成したドラムサンプルを使用し制作
5	基礎エディット①リズムの打ち込み	5	Mixの基礎①-1 I/Oについての知識、インプット、アウトプットについて
6	基礎エディット②ベース、コードと楽器の打ち込み	6	Mixの基礎①-2 マルチアウトとバスグループについて/グループ処理
7	基礎エディット③オーディオの録音について	7	Mixの基礎②-1 サイドチェインについて、その効果と用途の説明
8	基礎エディット④オーバーダビング、イベントの編集について	8	Mixの基礎②-2 サイドチェインについて、4つ打ちのキットトラック制作
9	基礎エディット⑤基本操作とエディットに関するまとめ	9	Mixの基礎③ オートメーションによるコントロール
10	サウンドメイキング①シンセサイザーでの音作り フィルターとエンベロープ	10	Mixの基礎④ リファレンス音源を用いたMIX調整/マルチトラックのソングデータをエクスポート
11	サウンドメイキング②シンセをピアノロールで打ち込みする	11	MIDIについての知識 C/Cなどの知識を学ぶ
12	サウンドメイキング③オーディオ編集/タイムストレッチ	12	音楽の基本構成① 題材曲を聴き、楽器トラック編成、エフェクト処理等の学習をする
13	サウンドメイキング④まとめ	13	音楽の基本構成② 周波数帯域についての学習
14	エフェクター①空間系エフェクターについて プリ、ポストについて	14	総合制作実習①
15	エフェクター②ダイナミクス系、EQとコンプレッサーについて	15	総合制作実習②
16	エフェクター③モジュレーション系、ゲート系、トレモロなどについて	16	1年間まとめ
17	エフェクター④アンプシュミレーター、ドライ/ウェットなどについて		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 PA&レコーディングエンジニア専攻 シラバス					
授業名	Pro Tools	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	ProToolsの様々な使用法を、スタジオ録音及びライブ録音の素材を用いたミックス作業から習得する				
授業概要	ProToolsの様々な使用法を、スタジオ録音及びライブ録音の素材を用いたミックス作業から習得する				
教科書	Pro Tools 12 徹底操作ガイド	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	ヘッドフォンを各自持参				
担当教員	竹内 貴彦	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業後、ラジオディレクターとして勤務。退社後、バンド活動と共にフリーランス音響エンジニアとして活動。現在、PA&レコーディングエンジニアとして様々なアーティストの現場で活躍中。				

前 期		後 期	
1	サブミックス	1	オーディオインポート
2	VCAグループ	2	セッションデータインポート
3	chグループ	3	MIDIデータインポート
4	フェーダーオートメーション	4	エラスティックオーディオ分析と同期
5	リバーブ(リバーブのタイプとパラメーター)	5	テンポ変更
6	リバーブ(リバーブのタイプとパラメーター)	6	エラスティックプロパティ
7	ディレイ(ディレイのパラメータと調整)	7	フェーダーオートメーション
8	イコライザー(パラメトリックイコライザー)	8	VCAマスター
9	コンプレッサー(コンプレッサーの調整)	9	TCEIによるテンポ同期
10	ドラムのミックス	10	プレイリストからのテイク決め
11	ベースの音決め	11	プラグイン
12	エレキギターの音決め	12	AAXとAUDIOSUITE
13	ボーカルトリートメント	13	バックアップコピー
14	エラスティック	14	トラックのトリートメント
15	エラスティックプロパティ	15	PTバージョンの変更
16	ライブネス(ライブネスとは)	16	マスターリング(WAVE LABIによるマスターリング) DDP書き出し
17	ライブミックス(ライブ音源のミックス)		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ミュージッククリエイター専攻 シラバス					
授業名	楽曲制作2	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	世界の音楽を知りさまざまなスタイルに対応した楽曲制作ができる				
授業概要					
教科書	なし	成績評価	課題、取り込み、出席率		
備考					
担当教員	端 一仁	実務経験			
実務内容	音楽大学在学中よりアレンジャーとして、数々の作品を手掛ける。同時に、ホーンセクションプレイヤーとして演奏活動も行う。作曲活動として、CMやイベント、楽曲提供などその範囲は広い。				

前 期		後 期	
1	授業の説明、1920年代北米の音楽シーン	1	サンバ、ルンバなどのラテン音楽
2	エレキギターの登場とブルース	2	サンバ制作①ビートとリズムのとり方
3	ブルース楽曲の制作	3	サンバ制作②パーカッションについて
4	ラグタイムの音楽とダンスミュージック	4	スカの音楽とレゲエ
5	ラグタイム制作①	5	スカ制作①
6	ラグタイム制作②	6	スカ制作②イントロを制作
7	カントリーミュージック発祥の背景/ケルト、ブルーグラスについて	7	番外編、スカコアについて
8	カントリー他制作実習①	8	スイング、4ビートのリズムの取り方、6thコードについて触れる
9	カントリー他制作実習②	9	トリオのでテーマ制作①
10	カントリー制作②	10	トリオの制作②
11	中南米の音楽について	11	オーケストラの楽曲について
12	レゲエの発展とボブマーリー	12	管弦楽法と和声および対位法①オーケストラの楽器と音色
13	レゲエのリズムと制作①	13	管弦楽法と和声および対位法①コード進行と和声について
14	レゲエ制作②	14	管弦楽法と和声および対位法①モノフォニーとポリフォニー、対位法の概要
15	ボサ・ノヴァのリズムアレンジの特徴	15	オーケストラ制作①
16	ボサ・ノヴァ制作①	16	オーケストラ制作②
17	ボサ・ノヴァ制作②		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ミュージッククリエイター専攻 シラバス					
授業名	DTM	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	楽曲制作に必要なスケール、コードを基本に新たにチャーチモードなど取り入れクオリティの向上を目指す				
授業概要					
教科書	なし	成績評価	学習態度、課題提出、出席率		
備考					
担当教員	端 一仁	実務経験	○		
実務内容	音楽大学在学中よりアレンジャーとして、数々の作品を手掛ける。同時に、ホーンセクションプレイヤーとして演奏活動も行う。作曲活動として、CMやイベント、楽曲提供などその範囲は広い。				

前 期		後 期	
1	ガイダンス、StudioOneの1年次チェック	1	Key Fmajorの曲にどうしてコードEbが出てきてカッコ良いのか？ブルースからチャーチモードでのモード変換を学習する
2	「ブンブンブン」、Tonicとドミナントモーションのセンスをみる	2	ブルースからチャーチモードでのモード変換を学習する 第二回
3	「Happy Bitrthday」、3コード I と IV と V のセンスをみる	3	ミクソリディアの b7 についての研究をする
4	Major Scale、3コードの第二回。 I と IV と V のセンスをみる	4	ミクソリディアのダイアトニックコードと終止形のパターンを学習し、ミクソリディアの曲を実際に作ってみる 第一回
5	「団子3兄弟」でマイナーKeyの学習をする	5	ミクソリディアのダイアトニックコードと終止形のパターンを学習し、ミクソリディアの曲を実際に作ってみる 第二回
6	マイナーのお勉強の2回目。今回はハーモニーマイナーとメロディックマイナーを学ぶ	6	Majorの曲にどうしてコード4mが出てきてカッコ良いのか？ブルースが発見される以前のモーダル・チェンジ、サブドミナントマイナー・コード
7	「Fly Me To The Moon」で四度進行の学習をする 第一回	7	ブルースが発見される以前のモーダル・チェンジ、サブドミナントマイナー・コードを再度確認する 第二回
8	自由課題制作、夏休みまで約一月、各学生にテーマを決めさせて自由課題制作を始める 第一回	8	サブドミナント・マイナー等、ノン・ダイアトニック・コードを使い、作曲を実際に行ってみる
9	自由課題制作、夏休みまで約一月、各学生にテーマを決めさせて自由課題制作を始める 第二回	9	自由課題制作、各学生にテーマを決めさせて自由課題制作を始める 第一回
10	自由課題制作、夏休みまで約一月、各学生にテーマを決めさせて自由課題制作を始める 第三回	10	自由課題制作、各学生にテーマを決めさせて自由課題制作を始める 第二回
11	メジャーでもマイナーでもなく、現在のポップスに大きな影響を与えているブルースの基本を学ぶ 第一回	11	自由課題制作、各学生にテーマを決めさせて自由課題制作を始める 第三回
12	メジャーでもマイナーでもなく、現在のポップスに大きな影響を与えているブルースの基本を学ぶ 第二回	12	各チャーチモードに沿ってメロディーを制作をしてハーモナイズする 第一回
13	基本的なブルースから II m-V 型か、マイナーブルースの基本形を学習する	13	各チャーチモードに沿ってメロディーを制作をしてハーモナイズする 第二回
14	ビートルズの代表曲から、最近のドミナントコード、IV/Vとか II m/Vのコードを学ぶ。これ以降は難しい曲なので二週以上に分けて行う	14	自由課題制作、各学生にテーマを決めさせて自由課題制作を始める 第一回
15	ビートルズの代表曲から、最近のドミナントコード、IV/Vとか II m/Vのコードを学ぶ 第二回	15	自由課題制作、各学生にテーマを決めさせて自由課題制作を始める 第二回
16	「Hey Judo」から、分数コードとモード変換を学ぶ 第一回	16	1年間まとめ、今後の制作活動についてディスカッション
17	「Hey Judo」から、分数コードとモード変換を学ぶ 第二回		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ミュージッククリエイター専攻 シラバス

授業名	楽曲研究演習	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	様々な時代やジャンルの楽曲を聞き、コピーすることで時代、ジャンル、楽曲に対しての理解を深める				
授業概要	様々な時代やジャンルの楽曲を聞き、コピーすることで時代、ジャンル、楽曲に対しての理解を深める				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	桑尾 哲郎	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。 バンド「TRASH AUDIO」にてJOIN ALIVE2014に出演。その後、「夢チカレコード」に所属し、ミニアルバム「One Of The Timeless」を全国発売。現在はロックバンド「CPRNX」「hakua.」のギタリストとして活動中。				

前 期		後 期	
1	授業ガイダンス	1	④課題曲演奏 1970年代の楽曲
2	楽曲紹介 1920年代～1950年代	2	⑤課題曲演奏 1970年代の楽曲
3	①課題曲演奏 1950年代の楽曲	3	楽曲紹介 1980年代①
4	②課題曲演奏 1950年代の楽曲	4	楽曲紹介 1980年代②
5	③課題曲演奏 1950年代の楽曲	5	①課題曲演奏 1980年代の楽曲
6	④課題曲演奏 1950年代の楽曲	6	②課題曲演奏 1980年代の楽曲
7	楽曲紹介 1960年代	7	③課題曲演奏 1980年代の楽曲
8	①課題曲演奏 1960年代の楽曲	8	④課題曲演奏 1980年代の楽曲
9	②課題曲演奏 1960年代の楽曲	9	⑤課題曲演奏 1980年代の楽曲
10	③課題曲演奏 1960年代の楽曲	10	楽曲紹介 1990年代①
11	④課題曲演奏 1960年代の楽曲	11	楽曲紹介 1990年代②
12	⑤課題曲演奏 1960年代の楽曲	12	①課題曲演奏 1990年代の楽曲
13	楽曲紹介 1970年代①	13	②課題曲演奏 1990年代の楽曲
14	楽曲紹介 1970年代②	14	③課題曲演奏 1990年代の楽曲
15	①課題曲演奏 1970年代の楽曲	15	楽曲紹介 2000年代①
16	②課題曲演奏 1970年代の楽曲	16	楽曲紹介 2000年代②
17	③課題曲演奏 1970年代の楽曲		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ミュージッククリエイター専攻 シラバス					
授業名	ソルフェージュ	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	演奏に於けるリズムとは何を指すかを知り、リズムの奥深さを感じ、今後の演奏に活かす基礎作り				
授業概要					
教科書	あり	成績評価	取り組み姿勢、理解度、試験、出席率		
備考	五線ノート				
担当教員	端 一仁	実務経験	○		
実務内容	音楽大学在学中よりアレンジャーとして、数々の作品を手掛ける。同時に、ホーンセクションプレイヤーとして演奏活動も行う。作曲活動として、CMやイベント、楽曲提供などその範囲は広い。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション 授業内容と目的、注意事項	1	メロディー譜を書く② オリジナルのメロディーを譜面に起こす(1)
2	コードの聞き取り① 低音部(Bass)の聞き取り	2	メロディー譜を書く② オリジナルのメロディーを譜面に起こす(2)
3	コードの聞き取り② 2声聞き取り、Bsまたはルート+1声	3	モードスケール② モードの成り立ち、考え方とアイオニアン、エオリアン
4	コードの聞き取り② 2声、3声聞き取り	4	モードスケール② ドリアン
5	コード進行コピー	5	モードスケール② フリジアン
6	メロディー譜制作② ヴォーカルメロディー譜の制作(1)	6	モードスケール② リディアン
7	メロディー譜制作② ヴォーカルメロディー譜の制作(2)	7	モードスケール② ミクソリディアン
8	テンションノート 11th,13th,等の理解	8	モードスケール② ロクリアン
9	コードまとめ、問題	9	その他スケール ホールトーン、オルタード他
10	セカンダリードミナント及びセカンダリードミナントモーションについて① 定義を知る	10	各スケールまとめ メジャー、各マイナー、各モードおさらい
11	セカンダリードミナント及びセカンダリードミナントモーションについて② セカンダリードミナントの使用例	11	コード聞き取り② コード制作と聞き取り、譜面作成(1)
12	学生から学生へ一問一答① 問題提出～解答～解説まで	12	コード聞き取り② コード制作と聞き取り、譜面作成(2)
13	学生から学生へ一問一答② 問題提出～解答～解説まで	13	管楽器の音楽概論 木管楽器のキーと譜面の捉え方について
14	キーと臨時記号に関することのまとめ①	14	管楽器の音楽概論 金管楽器のキーと譜面の捉え方について
15	キーと臨時記号に関することのまとめ②	15	後期試験
16	前期試験	16	解答と解説、2年間まとめ
17	解答と解説、2年前期まとめ	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム専攻 シラバス					
授業名	音楽理論	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	音楽を理解し演奏するための訓練。主に楽譜の読み書きやリズム、音程を正確に認識する力を養う				
授業概要					
教科書	あり	成績評価	取り組み姿勢、理解度、試験、出席率		
備考	五線ノート				
担当教員	端 一仁	実務経験	○		
実務内容	音楽大学在学中よりアレンジャーとして、数々の作品を手掛ける。同時に、ホーンセクションプレイヤーとして演奏活動も行う。作曲活動として、CMやイベント、楽曲提供などその範囲は広い。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション 授業内容と目的、注意事項	1	メロディー譜を書く② オリジナルのメロディーを譜面に起こす(1)
2	コードの聞き取り① 低音部(Bass)の聞き取り	2	メロディー譜を書く② オリジナルのメロディーを譜面に起こす(2)
3	コードの聞き取り② 2声聞き取り、Bsまたはルート+1声	3	モードスケール② モードの成り立ち、考え方とアイオニアン、エオリアン
4	コードの聞き取り② 2声、3声聞き取り	4	モードスケール② ドリアン
5	コード進行コピー	5	モードスケール② フリジアン
6	メロディー譜制作② ヴォーカルメロディー譜の制作(1)	6	モードスケール② リディアン
7	メロディー譜制作② ヴォーカルメロディー譜の制作(2)	7	モードスケール② ミクソリディアン
8	テンションノート 11th,13th,等の理解	8	モードスケール② ロクリアン
9	コードまとめ、問題	9	その他スケール ホールトーン、オルタード他
10	セカンダリードミナント及びセカンダリードミナントモーションについて① 定義を知る	10	各スケールまとめ メジャー、各マイナー、各モードおさらい
11	セカンダリードミナント及びセカンダリードミナントモーションについて② セカンダリードミナントの使用例	11	コード聞き取り② コード制作と聞き取り、譜面作成(1)
12	学生から学生へ一問一答① 問題提出～解答～解説まで	12	コード聞き取り② コード制作と聞き取り、譜面作成(2)
13	学生から学生へ一問一答② 問題提出～解答～解説まで	13	管楽器の音楽概論 木管楽器のキーと譜面の捉え方について
14	キーと臨時記号に関することのまとめ①	14	管楽器の音楽概論 金管楽器のキーと譜面の捉え方について
15	キーと臨時記号に関することのまとめ②	15	後期試験
16	前期試験	16	解答と解説、2年間まとめ
17	解答と解説、2年前期まとめ	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス					
授業名	マネジメントアンドプロデュース	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	人に伝える方法とマネージメントの仕方について学ぶ				
授業概要	楽曲を演奏する事だけではなく音以外で人に伝える方法やマネージメントする側の立場を学ぶ				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	桑尾 哲郎	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。 バンド「TRASH AUDIO」にてJOIN ALIVE2014に出演。その後、「夢チカレコード」に所属し、ミニアルバム「One Of The Timeless」を全国発売。現在はロックバンド「CPRNX」「hakua.」のギタリストとして活動中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション 授業内容の説明。	1	人に伝える② マインドセット 人に伝わる方法と自己成長のマインドを学ぶ。
2	目標設定について 業界就職に向けて、どのようなスキルが必要になるか、現状の課題を洗い出し、夢に向けた目標を再設定。	2	WEBマガジン運営⑧ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
3	WEBマガジン運営① WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	3	インタビュー② 人の魅力の引き出し方、会話の引き出し方を学ぶ。
4	ライティング WEBマガジンコンテンツのライタースキルを向上させるためライティングを学ぶ。	4	WEBマガジン運営⑨ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
5	マインドセット 経験や先入観から形成される試行や思い込みを取り払う。	5	集客 様々なイベントへの集客方法を学ぶ
6	WEBマガジン運営② WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	6	WEBマガジン運営⑩ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
7	イベント企画 イベントの企画。人に印象に残るイベントを理解し、自ら考えるようになる。	7	アーティストマネジメント③ アーティストマネジメントの基礎のまとめ
8	WEBマガジン運営③ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	8	コミュニケーション/目標達成① コミュニケーション能力を高め、目標達成に必要な考え方を学ぶ
9	アイデアの生み出し方 アイデアを生み出す方法と生かし方を学ぶ	9	WEBマガジン運営⑪ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
10	WEBマガジン運営④ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	10	イベント企画の立案 イベント企画を様々な角度から考えられるようにする。
11	人に伝える① 表現方法を変えて、人に伝える方法を学ぶ	11	WEBマガジン運営⑫ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
12	WEBマガジン運営⑤ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	12	企画力向上の7つのポイント 宿題である企画を発表。イベント企画の発表と今までのおさらいと企画力向上のポイントを伝える。
13	アーティストマネジメント① アーティストマネジメントの基礎	13	WEBマガジン運営⑬ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
14	WEBマガジン運営⑥ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	14	コミュニケーション/目標達成② コミュニケーション能力を高め、目標達成に必要な考え方を学ぶ
15	インタビュー① 人の魅力の引き出し方、会話の引き出し方を学ぶ。	15	WEBマガジン運営⑭ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作
16	WEBマガジン運営⑦ WEBマガジンのコンテンツの企画・制作	16	授業の振り返り、おさらい アーティストプロモーション総括
17	アーティストマネジメント② アーティストマネジメントの基礎のまとめ		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス					
授業名	楽曲研究実習	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	様々な時代やジャンルの楽曲を聞き、コピーすることで時代、ジャンル、楽曲に対する理解を深める				
授業概要	様々な時代やジャンルの楽曲を聞き、コピーすることで時代、ジャンル、楽曲に対する理解を深める				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	稲毛 雄太	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。 様々なジャンルにおいて数多くのアーティストのライブサポート、レコーディングに参加。自身のギタースクールを主宰する傍ら、複数の音楽教室に従事。インストバンド「SUPER GHETTI」のギタリストとしても活動中。				

前 期		後 期	
1	授業ガイダンス	1	④課題曲演奏 1970年代の楽曲
2	楽曲紹介 1920年代～1950年代	2	⑤課題曲演奏 1970年代の楽曲
3	①課題曲演奏 1950年代の楽曲	3	楽曲紹介 1980年代①
4	②課題曲演奏 1950年代の楽曲	4	楽曲紹介 1980年代②
5	③課題曲演奏 1950年代の楽曲	5	①課題曲演奏 1980年代の楽曲
6	④課題曲演奏 1950年代の楽曲	6	②課題曲演奏 1980年代の楽曲
7	楽曲紹介 1960年代	7	③課題曲演奏 1980年代の楽曲
8	①課題曲演奏 1960年代の楽曲	8	④課題曲演奏 1980年代の楽曲
9	②課題曲演奏 1960年代の楽曲	9	⑤課題曲演奏 1980年代の楽曲
10	③課題曲演奏 1960年代の楽曲	10	楽曲紹介 1990年代①
11	④課題曲演奏 1960年代の楽曲	11	楽曲紹介 1990年代②
12	⑤課題曲演奏 1960年代の楽曲	12	①課題曲演奏 1990年代の楽曲
13	楽曲紹介 1970年代①	13	②課題曲演奏 1990年代の楽曲
14	楽曲紹介 1970年代②	14	③課題曲演奏 1990年代の楽曲
15	①課題曲演奏 1970年代の楽曲	15	楽曲紹介 2000年代①
16	②課題曲演奏 1970年代の楽曲	16	楽曲紹介 2000年代②
17	③課題曲演奏 1970年代の楽曲		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム専攻 シラバス					
授業名	音楽制作2	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	楽曲制作において、さまざまなアイデアを取り入れることができるようになること				
授業概要	音楽概論の応用と機材の機能を取り入れて制作する				
教科書	なし	成績評価	取り組み、出席率、理解度		
備考					
担当教員	端 一仁	実務経験	○		
実務内容	音楽大学在学中よりアレンジャーとして、数々の作品を手掛ける。同時に、ホーンセクションプレイヤーとして演奏活動も行う。作曲活動として、CMやイベント、楽曲提供などその範囲は広い。				

前 期		後 期	
1	昨年のおさらいと今年度授業の説明	1	理論で勉強をしたコードでハーモナイズ③ SDマイナー
2	コントロールデータに知識とその作成	2	理論で勉強をしたコードでハーモナイズ④ Dマイナー
3	フレーズに合わせコントロールデータ	3	ドリアンを使用し、メロディーを制作する
4	編集:ピアノロールの使用と応用① デュレーションの設定でノリを変える	4	フリジアンを応用しエスニックな楽曲の制作
5	編集:ピアノロールの使用と応用② ベロシティの設定とグルーヴ感	5	ミクソリディアンで7thを上手に使ってみよう
6	楽曲の表現とデータの関係を知り、生の演奏にも生かせるようにする	6	モードを使い制作
7	ベロシティ設定の実習(ビート①) ドラムトラックを使い、ドラムの各ベロシティを調整	7	ループのオーディオサンプルとは?まずは聞いてみる
8	ベロシティ設定の実習(ビート②)ドラムトラックを使い、 パーカッションのインプットとベロシティを調整	8	ドラムサンプルを使って制作①
9	midi規格史デジタル化、KORG.ROLAND,YAMAHA など各メーカーの製品を見る	9	ドラムサンプルを使って制作②
10	音色名とその由来、実際の楽器を知る ① 鍵盤楽器、弦楽器	10	オーディオのスライス
11	音色名とその由来、実際の楽器と奏法を知る ② 弦楽器、管楽器	11	コードとキーに合わせてオーディオをトランスポートし てみる
12	音色名とその由来、実際の楽器と音色を知る ③ 打楽器	12	オーディオループを使って制作①
13	音色名とその由来、実際の楽器とその機種を知る ④ エレКТリック系	13	オーディオループを使って制作②
14	理論で勉強をしたコードでハーモナイズ① セカンダリードミナントを使ったハーモナイズ	14	簡単なミックス① ボーカルを中心としたバランス取り
15	理論で勉強をしたコードでハーモナイズ① セカンダリードミナントとその応用	15	簡単なミックス① 各エフェクト
16	理論で勉強をしたコードでハーモナイズ② モーダルインターチェンジ	16	1年間まとめ
17	作品制作		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム専攻 シラバス					
授業名	バンドアンサンブル	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	バンド形式の演奏を基礎を元にさらに発展させ、自立した演奏や各自の表現ができるよう演奏力の向上を目指す				
授業概要	演奏楽曲を決め、バンド形式での演奏の応用力を習得し社会の中で音楽を発表できる能力をつける				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、理解度、出席数		
備考	楽器、使用機材、ノートと五線ノート、ヘッドフォンまたはイヤフォンを各自用意				
担当教員	端 一仁	実務経験	○		
実務内容	音楽大学在学中よりアレンジャーとして、数々の作品を手掛ける。同時に、ホーンセクションプレイヤーとして演奏活動も行う。作曲活動として、CMやイベント、楽曲提供などその範囲は広い。				

前 期		後 期	
1	総合演奏;1年次の復習演奏①	1	世界の名曲① 新旧さまざまな名曲と呼ばれるな楽曲を紹介
2	総合演奏;1年次の復習演奏②	2	世界の名曲② 世界の各地域の楽曲をバンドで再現する
3	コードと採譜① コードについての知識	3	世界の名曲③ いろいろなジャンルのリズムアレンジ研究
4	コードと採譜② コードのサウンドと実践	4	パフォーマンス① ライブ演奏でのパフォーマンス
5	コードと採譜③ 他パート譜面及びスコアの作成	5	パフォーマンス② セットリストについて考える
6	メロディーと譜割の研究	6	パフォーマンス③ バンド及び演奏活動のしかた
7	アレンジ① リズムアレンジの制作の仕方と実践	7	オリジナル楽曲の演奏法①
8	J POP研究① 歌詞研究(1)	8	オリジナル楽曲の演奏法②
9	J POP研究② 歌詞の内容を解釈	9	メロディーとフレージング処理(1) 各フレーズの演奏の仕方考える
10	J POP研究③ 歌詞と演奏の結び付け	10	メロディーとフレージング処理(2) 各フレーズの演奏の仕方考える
11	アーティキュレーション① 理解と応用	11	アレンジ② コーラスアレンジ
12	アーティキュレーション② 色々な音価での演奏	12	アレンジ③ ギターアレンジ
13	各セクション同士のアンサンブル① 2つのセクションのみでの演奏	13	アレンジ④ キーボードアレンジ
14	各セクション同士のアンサンブル② さまざまなセクションの演奏	14	アレンジ⑤ オブリガード
15	楽曲の解釈① 自ら考えてみることを習得	15	総合演奏① 演奏発表
16	楽曲解釈② バンド全体での楽曲解釈	16	総合演奏② 演奏発表
17	楽曲解釈③ アレンジを変更する	17	

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

**2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム専攻 シラバス**

授業名	総合実習	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	各授業やレッスンにおいての課題曲を全員で知り、より深く掘り下げて演奏する一方で、違う視点から課題曲を考える				
授業概要	コピー、練習で全員で課題曲の取り組みをする				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、理解度、出席率		
備考	各楽器、スティック持参、必要に応じ譜面を配布				
担当教員	稲毛 雄太	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。 様々なジャンルにおいて数多くのアーティストのライブサポート、レコーディングに参加。自身のギタースクールを主宰する傍ら、複数の音楽教室に従事。インストバンド「SUPER GHETTI」のギタリストとしても活動中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション 授業内容と目的、注意事項	1	各授業の課題曲の紹介④
2	各授業の課題曲の紹介①	2	楽曲、アーティストについてのレクチャー アーティストの紹介と説明などをし、楽曲に対する理解をより深める
3	楽曲、アーティストについてのレクチャー アーティストの紹介と説明などをし、楽曲に対する理解をより深める	3	楽曲のコピーと譜読み それぞれのパートの耳コピーと実際の楽譜の情報を見比べる
4	楽曲のコピーと譜読み それぞれのパートの耳コピーと実際の楽譜の情報を見比べる	4	各パート練習とアンサンブル①
5	各パート練習とアンサンブル①	5	各パート練習とアンサンブル②
6	各パート練習とアンサンブル②	6	各授業の課題曲の紹介⑤
7	各授業の課題曲の紹介②	7	楽曲、アーティストについてのレクチャー アーティストの紹介と説明などをし、楽曲に対する理解をより深める
8	楽曲、アーティストについてのレクチャー アーティストの紹介と説明などをし、楽曲に対する理解をより深める	8	楽曲のコピーと譜読み それぞれのパートの耳コピーと実際の楽譜の情報を見比べる
9	楽曲のコピーと譜読み それぞれのパートの耳コピーと実際の楽譜の情報を見比べる	9	各パート練習とアンサンブル①
10	各パート練習とアンサンブル①	10	各パート練習とアンサンブル②
11	各パート練習とアンサンブル②	11	各授業の課題曲の紹介⑥
12	各授業の課題曲の紹介③	12	楽曲、アーティストについてのレクチャー アーティストの紹介と説明などをし、楽曲に対する理解をより深める
13	楽曲、アーティストについてのレクチャー アーティストの紹介と説明などをし、楽曲に対する理解をより深める	13	楽曲のコピーと譜読み それぞれのパートの耳コピーと実際の楽譜の情報を見比べる
14	楽曲のコピーと譜読み それぞれのパートの耳コピーと実際の楽譜の情報を見比べる	14	各パート練習とアンサンブル①
15	各パート練習とアンサンブル①	15	各パート練習とアンサンブル②
16	各パート練習とアンサンブル②	16	まとめ、1年間の楽曲演奏
17	前期楽曲を演奏	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ギター、ベース、ドラム専攻 シラバス					
授業名	セッション	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	レッスンや理論で得た技術をバックিংやソロなどに活用していく				
授業概要	課題曲のコピーや譜面の読譜。 毎回テーマを設けながらセッションを行う。				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考	各自で楽器の用意。				
担当教員	斉藤 彰宏	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科を卒業後、スタジオスタッフとして勤務。 バンド活動と並行しアーティストのサポート等ベーシストとしても活動。				

前 期		後 期	
1	授業の概要の説明。 昨年度の復習	1	課題曲でセッション ジャズスタンダード 課題曲の採譜と読譜
2	①ブルースセッション ターンアラウンドやエンディングの作り方	2	①ジャズスタンダードでセッション
3	②ブルースセッション 様々なキーやリズムでセッション	3	②ジャズスタンダードでセッション
4	①フリーセッション 自分たちでキーやリズム、構成を作る	4	③ジャズスタンダードでセッション
5	②フリーセッション 自分たちでキーやリズム、構成を作る	5	④ジャズスタンダードでセッション
6	課題曲でセッション 16ビートの楽曲 課題曲の採譜	6	⑤ジャズスタンダードでセッション
7	①16ビートの楽曲でセッション	7	課題曲でセッション シャッフルビートの楽曲 課題曲の採譜
8	②16ビートの楽曲でセッション	8	①シャッフルビートの楽曲でセッション
9	③16ビートの楽曲でセッション	9	②シャッフルビートの楽曲でセッション
10	④16ビートの楽曲でセッション	10	③シャッフルビートの楽曲でセッション
11	⑤16ビートの楽曲でセッション	11	④シャッフルビートの楽曲でセッション
12	課題曲でセッション 歌物の楽曲 課題曲の採譜と読譜	12	⑤シャッフルビートの楽曲でセッション
13	①歌物の楽曲でセッション	13	課題曲でセッション セッションの定番曲 課題曲の採譜と読譜
14	②歌物の楽曲でセッション	14	①定番曲でのセッション
15	③歌物の楽曲でセッション	15	②定番曲でのセッション
16	④歌物の楽曲でセッション	16	③定番曲でのセッション
17	⑤歌物の楽曲でセッション		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ヴォーカル専攻 シラバス				
授業名	ヴォーカルレッスン	学年	2年	単位数 4単位
授業目的	呼吸・姿勢・発声から、マイクテクニック・リズム感・ハーモニー・ライブ実習・録音実習までを段階的に習得			
授業概要	実際のライブパフォーマンスを想定した実践力を養い、安定した歌唱技術と自己表現力の確立を目指す			
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、歌唱内容	
備考	ノートと筆記用具持参			
担当教員	Vicky Vee	実務経験	○	
実務内容	アメリカ・オハイオ州シンシナティ出身のR&Bシンガー、ソングライター、プロデューサー。シンシナティを中心に音楽活動、シンシナティのMiss Black Teenage America初代優勝者。来日後、角松敏生プロデュースのアルバムを発表、FMノースウエイブのラジオパーソナリティ等、多彩な活動を展開。			

前 期		後 期	
1	オリエンテーション・授業の進め方の理解	1	曲解釈と歌詞理解
2	音程トレーニング①(ピッチ感覚)	2	自作曲歌唱①(歌詞作成)
3	音程トレーニング②(メロディ再現)	3	自作曲歌唱②(歌詞作成)
4	定期ライブパフォーマンス準備①	4	自作曲歌唱③(メロディ作成)
5	定期ライブパフォーマンス準備②	5	自作曲歌唱④(メロディ作成)
6	定期ライブパフォーマンス準備③	6	自作曲歌唱⑤(発表練習)
7	定期ライブパフォーマンス準備④	7	ステージ実践①(ライブ演出)
8	リズムトレーニング①(基礎リズム)	8	ステージ実践②(ライブ演出)
9	リズムトレーニング②(シンコペーション)	9	卒業公演に向けた準備
10	デュエット練習①	10	ファイナルパフォーマンス準備①
11	デュエット練習②	11	ファイナルパフォーマンス準備②
12	ステージMCTトレーニング	12	ファイナルパフォーマンス準備③
13	録音実習①(基礎レコーディング)	13	振り返りと評価①
14	録音実習②(自分の歌を聴く)	14	振り返りと評価②
15	発声メンテナンスと健康管理	15	成果を自己分析し、課題を明確化
16	プロボーカリスト分析①(発声特徴)	16	音楽業界の仕組みを理解
17	プロボーカリスト分析②(表現・魅せ方)	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ヴォーカル専攻 シラバス					
授業名	ヴォーカルレッスン	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	歌うための声づくりの基礎技術の習得をする				
授業概要	ベーシックと課題曲、自由曲に取り組み、歌唱の実践を学ぶ				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、歌唱内容		
備考	ノートと筆記用具持参				
担当教員	青山 浩之	実務経験	○		
実務内容	ヒロ青山名義で、これまでに日テレ「ものまねバトル大賞」、日テレ「99プラス」、フジ「ウチくる」、TBS「激突ものまねウォーズ」などの番組に出演。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション、歌詞の発音練習(1)	1	ヴォーカルテクニック:リップトリルとリズムトレーニング(1)
2	歌詞の発音練習(2)	2	ヴォーカルテクニック:リップトリルとリズムトレーニング(2)
3	地声とファルセットについての違い	3	頭部、胸部の使い方(1)
4	地声とファルセットの切り替え練習	4	頭部、胸部の使い方(2)
5	リップトリルの練習	5	表現力向上:発音の違いによる楽曲の表現力(1)
6	発声に鼻腔を意識する練習	6	表現力向上:発音の違いによる楽曲の表現力(2)
7	歌詞講座応用(1)	7	楽曲構成:ファルセットとミックスボイスのパワートレーニング(1)
8	歌詞講座応用(2)	8	楽曲構成:ファルセットとミックスボイスのパワートレーニング(2)
9	地声からファルセットへの移行、ミックスボイス	9	楽曲構成:ファルセットとミックスボイスのパワートレーニング(3)
10	アウフタクトについての知識と歌い出しの練習	10	総合作詞講座(1)
11	話しレベルの発声とその歌い方	11	総合作詞講座(2)
12	課題曲と自由曲のヴォーカルディレクション(1)	12	総合作詞講座(3)
13	課題曲と自由曲のヴォーカルディレクション(2)	13	ヴォーカルテクニック ア・カペラの歌唱練習とその表現方法(1)
14	課題曲と自由曲のヴォーカルディレクション(3)	14	ヴォーカルテクニック ア・カペラの歌唱練習とその表現方法(2)
15	課題曲と自由曲のヴォーカルディレクション(4)	15	総括ミニライブ(1)
16	前期総括ミニライブ(1)	16	総括ミニライブ(2)
17	前期総括ミニライブ(2)	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ヴォーカル専攻 シラバス					
授業名	ヴォーカルパフォーマンス	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	聴かせる・魅せるヴォーカルパフォーマンスの確立				
授業概要	発声・表現・身体表現・マイクテクニック・アンサンブル力などを通じて、ステージでの“魅せるヴォーカリスト”を育成				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、歌唱内容		
備考	ノートと筆記用具持参				
担当教員	佐藤 風香	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科ヴォーカル専攻卒業後、全国展開の音楽スクールにてヴォーカルインストラクター、ヴォーカルトレーナーを担当。				

前 期		後 期	
1	2年次ガイダンス／目標設定	1	後期ガイダンス／実践目標の再設定
2	コーラスワークとハーモニー感覚	2	オリジナル曲の表現研究(作詞意図と歌唱)①
3	ステージング応用(動きと演出の連動)	3	オリジナル曲の表現研究(作詞意図と歌唱)②
4	ステージマインドセット(プロとしての意識)	4	オリジナル曲の表現研究(作詞意図と歌唱)③
5	声質分析と個性の強化(キャラクター作り)①	5	ステージ演出企画(照明・演出構成)
6	声質分析と個性の強化(キャラクター作り)②	6	コーラス・コラボレーション実践①
7	表現技法(息遣い・フレーズコントロール)	7	コーラス・コラボレーション実践②
8	曲解釈と演技的要素(ドラマ性のある歌唱)①	8	録音実習(ライブ録音・音響確認)①
9	曲解釈と演技的要素(ドラマ性のある歌唱)②	9	録音実習(ライブ録音・音響確認)②
10	ステージング応用(動き・照明を意識した演出)	10	卒業制作ライブ準備①(演目決定と構成)
11	録音実習(マイクワーク・音質の研究)①	11	卒業制作ライブ準備②(照明・演出確認)
12	録音実習(マイクワーク・音質の研究)②	12	卒業ライブリハーサル
13	録音を用いた自己分析と修正練習	13	自己評価レポート作成(学びの振り返り)
14	セットリスト構築(流れを意識した選曲)	14	個別面談・今後の課題整理
15	MC・トーク練習(観客とのつながり方)	15	パフォーマンス総仕上げ(魅せ方と安定感)
16	ライブ形式発表会	16	ライブパフォーマンス総括
17	前期まとめ・個別講評	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ギター、ベース、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス					
授業名	副科ヴォーカルレッスン	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	ステージ上での表現・発信力を強化する				
授業概要	発声・音程・リズム・表現力・ステージングなど、演奏者として必要な“歌える力”を身につける				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、歌唱内容		
備考	ノートと筆記用具持参				
担当教員	櫻井 すみか	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科ヴォーカル専攻卒業後、全国展開の音楽スクールにてヴォーカルインストラクター、ヴォーカルトレーナーを担当。				

前 期		後 期	
1	ガイダンス・授業の進め方の理解	1	英語詞発音の基礎(リズムと発音)①
2	音程修正のコツと耳トレーニング	2	英語詞発音の基礎(リズムと発音)②
3	発声の安定と喉のケア方法	3	洋楽課題曲での実践①
4	リズムバリエーション(16ビート・シャッフル)①	4	洋楽課題曲での実践②
5	リズムバリエーション(17ビート・シャッフル)②	5	洋楽課題曲での実践③
6	曲のキーとトランスポーズ練習	6	洋楽課題曲での実践④
7	コーラス入門(ハモリの基礎)	7	表現力向上(ダイナミクスとテンション)
8	コーラス実践(3度・5度のハーモニー)①	8	ステージ上でのコミュニケーション(MC含む)
9	コーラス実践(3度・6度のハーモニー)②	9	自分の歌を録音して客観的に聴く練習
10	コーラス実践(3度・7度のハーモニー)③	10	ピッチ補正ソフトの基礎理解(Pitch Correction)
11	フェイク・アドリブの基本	11	アンサンブル実践(全員でのセッション)
12	バンド内での音量バランスと聴き方	12	音量コントロールとマイクワーク応用
13	簡単なアンサンブル実践(コーラス含む)①	13	バンド内での歌の立ち位置と聴かせ方
14	簡単なアンサンブル実践(コーラス含む)②	14	デュエット・コーラス実践
15	声質の分析と個性の活かし方	15	ライブ映像を見て自己分析(改善点の共有)
16	音域拡張トレーニング①	16	ボーカルテクニック総復習
17	音域拡張トレーニング②	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ギター専攻 シラバス			
授業名	ギターレッスン	学年	2年
		単位数	4単位
授業目的	バンドアンサンブルやライブ演奏に対応できる実践的なスキルを身につける		
授業概要	ジャンル別奏法やアドリブ、バンド演奏を通じて表現力と音楽的理解を深める		
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、試験等
備考	五線ノートと筆記用具持参		
担当教員	吉田 延彦	実務経験	○
実務内容	数多くのアーティストのライブサポート、レコーディングに参加。専門学校札幌ビジュアルアーツ音響学科ギター講師として20年以上にわたり、後進の指導を務める。		

前 期		後 期	
1	オリエンテーション/スケールを使ったメロディ構築	1	ライブ想定のパフォーマンス練習
2	ジャンル別バックイング実践	2	ボーカルとのバランスとサポート演奏
3	音楽理論と実践プレイの融合	3	ギターアレンジの考え方と音域分担
4	コードトーンソロの作り方	4	ライブ用機材セッティングとトラブル対応
5	スケールチェンジの練習	5	ジャンル別バンドアレンジ研究①
6	速弾き基礎(オルタネイト・エコノミー奏法)	6	ジャンル別バンドアレンジ研究②
7	アルペジオソロとコード連携	7	演奏技術の弱点補強と指導①
8	ギターソロの構築法:フレーズ構成と展開	8	演奏技術の弱点補強と指導②
9	音作り研究:アンプシミュレーターとマルチエフェクター	9	ソロ・バックイング両立プレイ練習
10	ライブでの音量・音質調整のコツ	10	卒業ライブ準備①:曲順・MC・演出計画
11	コピー曲による演奏分析と応用練習	11	卒業ライブ準備②:選曲とアレンジ確定
12	ソロ&アドリブ実践	12	卒業ライブ準備③
13	アンサンブル基礎:リズム隊との合わせ方	13	卒業ライブパフォーマンス評価
14	ドラム・ベースとのリズムセクション連携	14	後期実技チェック
15	バンド演奏におけるギターの役割理解	15	卒業後を見据えた音楽活動プラン講義
16	課題曲でのアンサンブル演奏	16	総まとめ:2年間の技術・表現力の総復習
17	前期実技チェック	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ギター専攻 シラバス			
授業名	ギターレッスン	学年	2年
		単位数	4単位
授業目的	ギターのテクニックと音楽的演奏法を学び、ギターでの仕事の仕方など実践も学ぶ		
授業概要	ベーシックと課題曲、自由曲に取り組み、歌唱の実践を学ぶ		
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、歌唱内容
備考	ノートと筆記用具持参		
担当教員	稲毛 雄太	実務経験	○
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。 様々なジャンルにおいて数多くのアーティストのライブサポート、レコーディングに参加。自身のギタースクールを主宰する傍ら、複数の音楽教室に従事。インストバンド「SUPER GHETTI」のギタリストとしても活動中。		

前 期		後 期	
1	リズムトレーニング: 楽曲に対するアプローチの引き出し増加	1	基礎力の再復習
2	リズムトレーニング: 前ノリと後ノリ	2	オルタードテンション
3	リズムトレーニング: タイム感の習得	3	得意分野のアプローチ向上(1)
4	リズムトレーニング: 演奏時の押しと引き(1)	4	得意分野のアプローチ向上(2)
5	リズムトレーニング: 演奏時の押しと引き(2)	5	得意分野のアプローチ向上(3)
6	音符と和音: アナライズによる各ケーデンス、コード手法	6	楽曲やフレーズ作成の習慣化(1)
7	音符と和音: テンションノートの把握	7	楽曲やフレーズ作成の習慣化(2)
8	音符と和音: ジャンルの拡大	8	楽曲やフレーズ作成の習慣化(3)
9	音符と和音: アコースティック対応	9	コード譜、リズム譜の初見(1)
10	音符と和音: アドリブや普段の手癖の分析、応用及び改善	10	コード譜、リズム譜の初見(2)
11	音符と和音: 作曲とアレンジ	11	スランプ、苦手意識に対する克服(1)
12	音符と和音: ドミナント時のアプローチ	12	スランプ、苦手意識に対する克服(2)
13	イヤートレーニング: 和音と他楽器の聴音	13	モチベーション低下時のフォローアップ
14	イヤートレーニング: 演奏スタイルの把握と確立	14	卒業後の流れ、仕事の取り方、作り方(1)
15	イヤートレーニング: 練習や作曲問わず簡易的なレコーディング	15	卒業後の流れ、仕事の取り方、作り方(2)
16	イヤートレーニング: アーティキュレーション(1)	16	卒業後の流れ、仕事の取り方、作り方(3)
17	イヤートレーニング: アーティキュレーション(2)	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ヴォーカル、ベース、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス					
授業名	選択副科ギターレッスン	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	基礎的な演奏技術とアンサンブルでの実践力を身につける				
授業概要	他パート(ヴォーカル、ベース、ドラム等)との連携を重視し、総合的な音楽力を養う				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	桑尾 哲郎	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。 バンド「TRASH AUDIO」にてJOIN ALIVE2014に出演。その後、「夢チカレコード」に所属し、ミニアルバム「One Of The Timeless」を全国発売。現在はロックバンド「CPRNX」「hakua.」のギタリストとして活動中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション／ジャンル別バックング応用	1	課題曲練習①
2	ジャンル別伴奏法①:ロック系リズムギター	2	課題曲練習②
3	ジャンル別伴奏法②:ロック系リズムギター	3	課題曲練習③
4	ジャンル別バックング応用	4	ボーカルとのバランスを意識した演奏
5	テンションコード(7th・sus4など)の導入	5	演奏中の聴く力(他パートとの連携)養成
6	バックングでの強弱表現の練習	6	簡単なライブ形式の練習①
7	簡単なソロフレーズの作成と演奏	7	簡単なライブ形式の練習②
8	ベース・ドラムとのリズム連携理解	8	ステージでの音量・音質コントロール
9	リズムギターの安定感強化	9	音作りとリズムの安定性を再確認
10	クリーンと歪みの切り替え練習	10	演奏表現におけるダイナミクス練習
11	アルペジオとコード進行の組み合わせ	11	課題曲の分析とアレンジ練習①
12	コード進行に合わせた簡単なアドリブ演奏	12	課題曲の分析とアレンジ練習②
13	ギターソロの基礎:ペンタトニック活用	13	課題曲の分析とアレンジ練習③
14	コードトーンを意識したメロディ作り	14	課題曲の分析とアレンジ練習④
15	音作り研究:ジャンルごとのトーン再現	15	総まとめ:基礎・応用・実践の総復習①
16	アンサンブル対応力の強化	16	総まとめ:基礎・応用・実践の総復習②
17	前期実技チェック		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ベース専攻 シラバス			
授業名	ベースレッスン	学年	2年
		単位数	4単位
授業目的	ベースの役割を理解し、安定した演奏を行い、ステージや録音で求められるサウンドメイキングを習得		
授業概要	正確なリズム感、豊かな表現力、アンサンブル対応力を育成し、プロ現場に対応できるベーシストを目指す		
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、歌唱内容
備考	ノートと筆記用具持参		
担当教員	斉藤 彰宏	実務経験	○
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科を卒業後、スタジオスタッフとして勤務。 バンド活動と並行しアーティストのサポート等ベーシストとしても活動。		

前 期		後 期	
1	2年次ガイダンス／上級課題の提示	1	コードトーンを意識したライン作り
2	ウォーキングベース入門	2	フレーズの抑揚と表現力
3	スラップベース基礎(サムピング・プル)①	3	アップテンポ対応トレーニング
4	スラップベース基礎(サムピング・プル)②	4	リズムチェンジとテンポキープ練習
5	スラップ応用(16ビートとゴーストノート)①	5	アドリブ演奏(スケール応用)
6	スラップ応用(17ビートとゴーストノート)②	6	プロ演奏者のライン分析とコピー練習①
7	ミュート奏法とリズムのタイト化	7	プロ演奏者のライン分析とコピー練習②
8	フィンガリング強化トレーニング	8	ベースソロの構成法
9	ベースラインの構築法(アドリブ要素)	9	ステージセッティングとサウンドチェック練習
10	ジャンル別ベース奏法(ロック①)	10	エフェクター基礎(コンプ・EQの使い方)
11	ジャンル別ベース奏法(ロック②)	11	音作り応用(曲調に合わせたサウンド設計)
12	ジャンル別ベース奏法(ポップス①)	12	バンド内での音量・定位バランス研究
13	ジャンル別ベース奏法(ポップス②)	13	フィルとブレイクの応用練習
14	ジャンル別ベース奏法(ジャズ①)	14	録音実習(バンド録音・クリック対応)
15	ジャンル別ベース奏法(ジャズ②)	15	ステージトラブル対応と即興力強化
16	自分の演奏を聴いて改善点を分析	16	自己分析と演奏レポート作成
17	前期実技チェック	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ベース専攻 シラバス					
授業名	ベースレッスン	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	ギターのテクニックと音楽的演奏法を学び、ギターでの仕事の仕方など実践も学ぶ				
授業概要	ベーシックと課題曲、自由曲に取り組み、歌唱の実践を学ぶ				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率、歌唱内容		
備考	ノートと筆記用具持参				
担当教員	斉藤 彰宏	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ音響学科を卒業後、スタジオスタッフとして勤務。 バンド活動と並行しアーティストのサポート等ベーシストとしても活動。				

前 期		後 期	
1	譜面読みトレーニング: 初見演奏レベル(1)	1	スラップ ①: ゴーストをメインとした16分フレーズ(1)
2	譜面読みトレーニング: 初見演奏レベル(2)	2	スラップ ①: ゴーストをメインとした16分フレーズ(2)
3	理論とテクニック: メジャーとマイナーのトライアド(1)	3	スラップ ②: 各音階でフレーズを作る(1)
4	理論とテクニック: メジャーとマイナーのトライアド(2)	4	スラップ ②: 各音階でフレーズを作る(2)
5	理論とテクニック: スケール内の各度数と役割(1)	5	課題曲練習: スラップ使用曲(1)
6	理論とテクニック: スケール内の各度数と役割(2)	6	課題曲練習: スラップ使用曲(2)
7	ピック弾きトレーニング(1)	7	様々なテクニック: 弦飛びフレーズ(1)
8	ピック弾きトレーニング(2)	8	様々なテクニック: 弦飛びフレーズ(2)
9	ピック弾きトレーニング(3)	9	課題曲練習: 弦飛びフレーズ使用曲(1)
10	ピック弾きトレーニング(4)	10	課題曲練習: 弦飛びフレーズ使用曲(2)
11	課題曲練習: ピック弾き(1)	11	様々なテクニック: ハンマリング、プリング、スライド
12	課題曲練習: ピック弾き(2)	12	ハンマリング、プリング、スライドを応用した課題曲練習
13	課題曲練習: ピック弾き(3)	13	様々なテクニック: ダブルストップ、和音弾き
14	理論とテクニック: ペンタニックスケール/ディミニッシュとオーギュメント(1)	14	ダブルストップ、和音弾きを応用した課題曲練習
15	理論とテクニック: ペンタニックスケール/ディミニッシュとオーギュメント(2)	15	様々なジャンルのベースラインに触れる(1)
16	理論とテクニック: 簡単な進行上でのソロ演奏(1)	16	様々なジャンルのベースラインに触れる(2)
17	理論とテクニック: 簡単な進行上でのソロ演奏(1)	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ヴォーカル、ギター、ドラム、ミュージッククリエイター専攻 シラバス					
授業名	選択副科ベースレッスン	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	ベースを専門外とする学生が、音楽全体を支えるリズム感とハーモニー理解を身につける				
授業概要	エレキベースの基本的な奏法(フィンガー奏法・ミュート・スラップなど)と、リズム・ハーモニーの基礎を学ぶ。				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	齊藤 彰宏	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアート音響学科を卒業後、スタジオスタッフとして勤務。バンド活動と並行しアーティストのサポート等ベーシストとしても活動。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション／リズム練習	1	エレキベースのサウンドメイク
2	主要コード進行に合わせたルート弾き練習	2	トーン・ボリュームの調整と音作り
3	オクターブ奏法の理解と練習	3	ジャンル別奏法:ロック系ベースライン①
4	ベースラインの基本パターン(ポップス編)①	4	ジャンル別奏法:ロック系ベースライン②
5	ベースラインの基本パターン(ポップス編)②	5	ジャンル別奏法:ポップス系ベースライン①
6	リズムトレーニング:8ビートの安定化	6	ジャンル別奏法:ポップス系ベースライン②
7	ブルース進行に基づくベースライン演奏	7	ジャンル別奏法:ファンク系ベースライン①
8	ミュート奏法と音の切り方の基礎	8	ジャンル別奏法:ファンク系ベースライン②
9	ベースの音符の長さとのリズム表現練習	9	スラップ奏法入門(サムピングとプル)
10	アルペジオの構成と実践	10	ベースとコード進行の関係理解
11	16ビートにおけるベースラインのリズム感強化	11	ベースフレーズの構築練習①:Cメジャーキー
12	ベースとドラムの関係理解:キックとの連携	12	ベースフレーズの構築練習②:Aマイナーキー
13	スケール基礎①:メジャースケールの運指	13	ベースとドラムのリズムコンビネーション強化
14	スケール基礎②:マイナースケールの運指	14	課題曲コピーによる演奏分析①
15	ペントニックスケールの習得	15	課題曲コピーによる演奏分析②
16	基本リズムとルートプレイの定着	16	総まとめ:2年間の演奏力・表現力の振り返り
17	前期実技チェック		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ドラム専攻 シラバス					
授業名	ドラムレッスン	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	バンド演奏におけるリーダーシップと安定感、ステージや録音で発揮できる実践的スキルを習得する				
授業概要	安定したリズム感・正確なタイム感・豊かな表現力を養い、ステージで通用するドラマーを育成する				
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率		
備考	スティック持参、必要に応じ譜面を配布				
担当教員	大山 淳	実務経験	○		
実務内容	数多くのミュージシャンやシンガーと共演、コンサートやレコーディングに関わる。PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)では札幌交響楽団とも共演。伝説的ブラスロックバンド「Soul Power」のサポート・ドラマーとしても活動中。				

前 期		後 期	
1	2年次ガイダンス／上級課題の提示	1	後期ガイダンス／プロ志向課題の設定
2	高速8ビート・16ビートへの対応練習①	2	楽曲分析(プロドラマーの演奏研究)④
3	高速8ビート・17ビートへの対応練習②	3	楽曲分析(プロドラマーの演奏研究)⑤
4	変拍子(5/4・7/8など)の導入①	4	楽曲分析(プロドラマーの演奏研究)⑥
5	変拍子(5/4・7/9など)の導入②	5	録音実習(自分のプレイを客観的に聴く)
6	ドラムソロ構築法(構成と展開)①	6	ステージ上での音作りとセッティング技術
7	ドラムソロ構築法(構成と展開)②	7	ミュート・サウンドコントロール練習
8	ドラムソロ構築法(構成と展開)③	8	アドリブ・即興演奏トレーニング①
9	スネアの多様な表現(ブラシ・ロールなど)①	9	アドリブ・即興演奏トレーニング②
10	スネアの多様な表現(ブラシ・ロールなど)②	10	曲アレンジにおけるドラムの役割分析
11	左右バランス強化(ハンドインディペンデンス)	11	ステージング練習(動き・表情・姿勢)
12	フットワーク強化(ダブルペダル練習)	12	卒業制作曲リハーサル
13	楽曲分析(プロドラマーの演奏研究)①	13	プロドラマーのプレイスタイル研究
14	楽曲分析(プロドラマーの演奏研究)②	14	音楽ジャンル別対応力(ロック・ポップス・R&B)
15	楽曲分析(プロドラマーの演奏研究)③	15	ステージトラブル対応(機材・テンポ等)
16	フィルとブレイクのアンサンブル練習	16	自己分析と課題整理レポート作成
17	前期演奏発表・個別指導	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ドラム専攻 シラバス					
授業名	ドラムレッスン	学年	2年	単位数	4単位
授業目的	ドラム演奏上の技術の定着と発展				
授業概要					
教科書	なし	成績評価	取り組み姿勢、出席率		
備考	スティック持参、必要に応じ譜面を配布				
担当教員	大山 淳	実務経験	○		
実務内容	数多くのミュージシャンやシンガーと共演、コンサートやレコーディングに関わる。PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)では札幌交響楽団とも共演。伝説的ブラスロックバンド「Soul Power」のサポート・ドラマーとしても活動中。				

前 期		後 期	
1	グリップとフォームの基本再確認	1	ストローク(シングル&ダブル)基本再確認練習
2	基本ストローク再確認	2	アクセント&チェンジアップ基本練習
3	モーラー的ストローク(ウィップモーション)	3	ダブルストローク・パラディドル・フラム・ドラッグ(1)
4	フォームチェック:指-手首-肘-肩の連動	4	ダブルストローク・パラディドル・フラム・ドラッグ(2)
5	シングル、ダブルストローク応用練習	5	ダブルストローク・パラディドル・フラム・ドラッグ(3)
6	アクセントとレベルコントロール練習	6	ダブルストローク・パラディドル・フラム・ドラッグ(4)
7	チェンジアップとルーディメンツ(応用)	7	スネアソロ曲の練習と応用
8	フォームとセッティング再確認	8	シングルペダル-ダブルキック
9	ヒールアップ奏法の確認	9	ツインペダル-連打/コンビネーション
10	シンコペーション応用	10	左足ゴースト-4way(四肢の独立)
11	ツインペダルの応用	11	手足の応用コンビネーション(1)
12	アクセントを発展させたコーディネーション	12	手足の応用コンビネーション(2)
13	左足のゴーストモーション	13	リニアフレーズ練習
14	4WAY(四肢の独立)	14	Rock/Funk/シャッフル課題曲(1)
15	ROCK(8beat)課題曲練習	15	Rock/Funk/シャッフル課題曲(2)
16	シャッフル(Bounce)課題曲練習	16	Rock/Funk/シャッフル課題曲(3)
17	Funk(16beat)課題曲練習	17	—

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります

2026年度 ヴォーカル、ギター、ベース、ミュージッククリエイター専攻 シラバス					
授業名	選択副科ドラムレッスン	学年	2年	単位数	2単位
授業目的	安定したリズムを支える演奏技術を習得する				
授業概要	他パートを支えるリズム隊としての役割を実践的に理解する				
教科書	なし	成績評価	授業中の取り組む姿勢、理解度と出席率		
備考					
担当教員	西村 一晟	実務経験	○		
実務内容	札幌ビジュアルアーツ 音響学科卒業。 JOIN ALIVEに出演等、ドラマーとして数多くのライブやレコーディングに参加。島村楽器のドラム講師としても活動中。				

前 期		後 期	
1	オリエンテーション／音作りとチューニング基礎	1	ジャンル別演奏の基礎定着①
2	スネアとタムのチューニング方法	2	ジャンル別演奏の基礎定着②
3	ドラムセット全体の音量バランス調整	3	ジャンル別演奏の基礎定着③
4	ジャンル別リズム:ロック①	4	ベースとのコンビネーション:キックとルートの連携
5	ジャンル別リズム:ロック②	5	ベースとのコンビネーション:リズムセクションの一体感
6	ジャンル別リズム:ロック③	6	リズム隊の役割理解とバンド全体を支える意識
7	ジャンル別リズム:ポップス①	7	曲構成に合わせたドラムパターン選択
8	ジャンル別リズム:ポップス②	8	イントロ・Aメロ・サビのパターン構築練習
9	ジャンル別リズム:ポップス③	9	フィルインの配置と展開の作り方①
10	ジャンル別リズム:ファンク①	10	フィルインの配置と展開の作り方②
11	ジャンル別リズム:ファンク②	11	テンポの揺れに対応する感覚練習
12	シャッフルリズムの練習①	12	他パートを聴きながら演奏する練習
13	シャッフルリズムの練習②	13	ボーカルを意識した演奏(歌を支えるドラム)
14	3連系フィルインの基礎	14	ギター・ベースとのリズムキープ調整
15	ハイハットワークのバリエーション強化	15	課題曲練習(基本パターン&フィルイン)
16	シンバルの使い方(クラッシュ・ライドの使い分け)	16	総まとめ:リズム・表現・アンサンブル力の集大成
17	前期実技チェック		

※習熟状況などにより授業展開が変わることがあります